

# 81カ国共産党・労働者党 代表者会議の声明と 世界各国人民へのよびかけ

付・1957年モスクワ宣言・平和のよびかけ



日本共産党中央委員会宣伝教育部編  
日本共産党中央委員会出版部発行

——共産党・労働者党代表者会議の声明——

目 次

共産党・労働者党代表者会議についての発表（1

共産党・労働者党代表者会議の声明（3）

世界各国人民へのよびかけ（57）

付 録

1957年モスクワ会議の宣言（67）

平和のよびかけ（89）

### 共産党・労働者党代表者会議についての発表

一九六〇年十一月偉大な十月社会主義革命四十三周年の祝賀に参加した各国共産党・労働者党の代表の会議がモスクワでひらかれた。

会議に参加したのは、つぎの八十一の共産党および労働者党の代表団である。すなわち  
オーストラリア共産党、オーストリア共産党、アルバニア労働党、アルジェリア共産党、  
アルゼンチン共産党、ベルギー共産党、ビルマ共産党、ブルガリア共産党、ボルビア共産  
党、ブラジル共産党、イギリス共産党、ハンガリー社会主義労働者党、ベネズエラ共産党、  
ベトナム労働党、ハイチ人民統一党、グアデループ共産党、グアテマラ労働党、ドイツ社  
会主義統一党、ドイツ共産党、ホンジュラス共産党、ギリシャ共産党、デンマーク共産党、  
ドミニカ人民社会党、イスラエル共産党、インド共産党、インドネシア共産党、ヨルダン  
共産党、イラク共産党、イラン人民党、アイルランド労働者同盟、北アイルランド共産党、  
スペイン共産党、イタリア共産党、カナダ共産党、キプロス勤労人民進歩党、中国共産党、  
コロンビア共産党、朝鮮労働党、コスタリカ人民前衛党、キューバ人民社会党、レバノン  
共産党、ルクセンブルグ共産党、マラヤ共産党、モロッコ共産党、マルチニク共産党、メ  
キシコ共産党、モンゴル人民革命党、ネパール共産党、オランダ共産党、ニカラグア社会  
党、ニュージーランド共産党、ノルウェー共産党、パナマ人民党、パラグアイ共産党、ペ

ルーマニア共産党、ポーランド統一労働者党、ポルトガル共産党、レユニオン共産党、ルーマニア労働者党、サルバドル共産党、サンマリノ共産党、シリア共産党、ソ連邦共産党、スーダン共産党、タイ共産党、チュニジア共産党、トルコ共産党、ウルグアイ共産党、フィンランド共産党、フランス共産党、セイロン共産党、チエコスロバキア共産党、チリ共産党、スイス労働党、スエーデン共産党、エクアドル共産党、南アフリカ連邦共産党、日本共産党、およびその他の党の代表である。

会議の参加者は、経験を交換し、相互の見解と立場をよく知りあい、平和、民主主義、民族独立および社会主義の共通の目的をめざす共同の闘争のため、こんにちの国際的発展および共産主義運動の当面する諸問題を討議した。会議は全員一致で「共産党・労働者党の声明」を採択し、「世界各国人民へのよびかけ」を採択した。

すべての問題の討議は、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の確固不動の原則を基礎に、兄弟的友好のふんい気のうちにおこなわれた。

## 共産党・労働者党代表者会議の声明

【一九六〇年】

各国共産党・労働者党の代表は、この会議で、こんにちの国際情勢と平和、民族独立、民主主義および社会主義をめざす今後のたたかひのさしせまった諸問題を討議した。

会議は、討議された諸問題にかんする参加者の見解が一致していることをしめした。各国共産党・労働者党は、一九五七年に採択された「宣言」および「平和のよびかけ」に忠実であることを全員一致で確認した。創造的マルクス・レーニン主義のこの綱領的文書は、こんにちのもっとも重要な問題についての国際共産主義運動の原則的な態度を決定し、共通の目的をめざすたたかひにおける各国共産党・労働者党の努力の結集を大いに促進した。これらの文書は、国際共産主義運動全体にとって、依然として戦闘的な旗じるしであり、行動の指針である。

過去三年間における事態の発展は、「宣言」と「平和のよびかけ」にのべられた国際情勢の分析と世界の発展の見とおしの正しさを証明し、創造的マルクス・レーニン主義の偉大な科学的な力と、有効な役割を証明した。

この時期におけるおもな結論は、社会主義世界体制の力量と国際的影響力の急激な成長、民族解放運動の打撃による植民地体制のいちじるしい崩壊の過程、資本主義世界における階級闘争の激化、資本主義世界体制のいっそうの衰退と腐朽である。世界の舞台では、帝国主義にたいする社会主義勢力の優位、戦争勢力にたいする平和勢力の優位がますます明らかになっている。

しかし、帝国主義は自分の陣地を保持しようとして軍縮をさばり、冷戦をひきのばして、あらゆる方法でそれを激化させようとつとめ、新しい世界大戦を執拗に準備している。したがって実生活は、社会主義諸国、国際労働者階級、反帝国主義民族運動、あらゆる平和愛好諸国、およびすべての平和の戦士にたいして、戦争を防ぎ、平和な生活を保障するために力をますますかたく結集し、断固たる行動をとるよう強く要求している。実生活は、帝国主義に反対し、民族独立、社会主義をめざしてたたかうためにすべての革命勢力がいっそう団結するよう強く要求している。

# 一

十月社会主義大革命にはじまる資本主義から社会主義への移行を基本的内容とするわれわれの時代は、あい対立する二つの社会体制の闘争の時代、社会主義革命および民族解放革命の時代、帝国主義の崩壊、植民地体制一掃の時代、各国人民がつぎつぎと社会主義への道にふみだし、社会主義と共産主義が世界的な規模で勝利する時代である。

われわれの時代のおもな特徴は、社会主義世界体制が人類社会発展の決定的な要因に転化しつつある点にある。

社会主義の力とその無敵さは、最近数十年間に新世界と旧世界との大闘争を通じて立証された。

帝国主義とその突撃隊であるファシズムは、武力をもって歴史の発展の歩みをおしとどめようとしたが、そのくわだては失敗に終わった。帝国主義はヨーロッパとアジアにおける社会主義革命の進行をはばむだけの力をもっていなかった。社会主義は世界体制となった。帝国主義は社会主義諸国家の経済の発展をおくらせようとした。このたくらみもさせつした。帝国主義は、植民地的奴隸制度を維持するために、ありとあらゆる手段を使った。しかし、この制度もくずれつつある。社会主義の世界体制が強くなるにつれて、国際情勢は、独立、民主主義、社会進歩をめざしてたたかう各国人民に有利な方向に、ますます決定的にかわりつつある。

こんにちの時代における人類社会の歴史的発展のおもな内容、おもな方向、おもな特徴を決定しているものは、社会主義世界体制、帝国主義に反対してたたかっている勢力、社会の社会主義的変革のためにたたかっている勢力である。帝国主義のどのようなあがきも歴史の前進運動をくいとめることはできない。社会主義の今後の決定的な勝利のための強固な前提がすでにできている。社会主義の完全な勝利は避けがたい。

勝利した社会主義の国ぐにが経済建設によって世界革命の進展にそのおもな影響をあたえるというレーニンの予見は、その後の社会発展のなりゆきによって確認されている。社会主義は、生産、科学、技術面でも、また人間の物質的・精神的欲求をますます大きく満たす新しい自由な共同体をうちたてるうえでも、いままでにない創造的な成功をおさめている。世界の生産における比重の点でも、社会主義が第一位を占めるときが近づいている。人類の活動の決定的な部面、すなわち物質

的生産の部面で資本主義は敗北を喫するであらう。

社会主義体制の強化と発展は、資本主義諸国の人民の闘争に、ますます増大する影響をおよぼしている。社会主義世界体制は実例によって、資本主義世界の勤労者の意識を革命化し、資本主義に反対するたにかいへとかれらをふるいたたせ、このたにかいの条件を大いに有利にしている。資本主義国では、平和と民族独立を守り、民主主義と社会主義の勝利を保証する使命をもつ内部の勢力が増大し、強くなっている。

資本主義世界体制は衰退と腐朽の深刻な過程にある。帝国主義の矛盾は独占資本主義の国家独占資本主義への転化を促進した。国家独占資本主義は、民族の生活にたいする独占体の支配を強め、つ、独占体の力と国家の力を単一の機構に結合したが、それは、資本主義制度を救済するために、労働者階級の搾取と、広範な人民各層の略奪によって、帝国主義ブルジョアジーに、最大限の利潤の増加をもたらすためである。

しかし、独占ブルジョアジーが資本主義を救いうるような手段はない。ひとにぎりの独占体の利益は全民族の利益とあいられない矛盾におちいつている。資本主義社会の階級のおよび民族的な諸対立、その内部のおよび対外的な矛盾は激化している。資本主義の腐れきった足場を軍国主義でテコ入れしようとする試みは、これらの矛盾をいっそう強めている。

資本主義世界の生産力と生産関係との衝突が今日ほど深刻であったことはいままでにない。資本主義は現代の科学・技術の成果を社会進歩のために利用することをますますよく妨げている。資本主義は人間のすぐれた才能が発見し発明したものを人類そのものをそこなうために使い、みなご

ろしの戦争の恐ろしい道具にしている。

資本主義経済の不安定性は増大しつつある。若手の資本主義国では多かれ少なかれ生産増加がおこなわれているが、しかし、それにもかかわらず資本主義の矛盾は一国内でも、また世界的な規模でも激化する一方である。このまへの経済恐慌のすべての結果の克服ができないうちに、一連の資本主義諸国はまたもや新しい経済的激動の脅威に直面している。資本主義生産の無政府性はますます深刻なものになっている。資本主義的集中の過程がいままでにないほどつよまり、独占体の利潤と超過利潤はますます増大している。独占資本は労働強化をはじめとする新しい形態によって、労働者階級の搾取をはかりしれないほどつよめている。資本主義のもとでおこなわれるオートメーション化と「合理化」は、勤労者に新しい損害をもたらしている。個々の国ぐにの労働者階級は、ねばりつよいたたかいはを通じてはじめて一連の切実な要求をかちとることができた。多くの資本主義国では、生活水準は依然として戦前よりも低い。完全雇用はブルジョアジーの約束に反してただ個々の資本主義国で、しかも一時的に実現されたにすぎない。独占体の抑圧は、広範な農民大衆と中小ブルジョアジーの広範な層の利益にますます大きな損害を与えている。資本主義諸国では、若千のもつとも進んだ資本主義国をふくめて、大衆の窮乏がとくにはなほだしい、経済的におくれた地域がいまだに存在しており、これがひろがっていく場合さえもある。

これらすべてのことは、現代の資本主義が「人民資本主義」に変わったという、そして、生産の無政府状態と経済恐慌を克服し、すべての勤労者に福祉を確保するいわゆる全般的「福祉国家」をつくりあげたというブルジョア理論家と修正主義者のウソ八百を、かさねて論破している。

資本主義発展の不均等性のために、帝国主義諸国間の力関係はつねに変化している。帝国主義支配の範囲がせばまるにつれて、帝国主義列強の矛盾がますます強くあらわれている。市場の問題が、かつてなかったほど先鋭化している。「統合」のスローガンをかけて生まれた国家間の新しい機構は、実際には帝国主義諸国間の矛盾と闘争をさらにつよめており、資本家の大連合による世界の資本主義市場の分割、よりつよい帝国主義国のよわい相手国の経済にたいする浸透の新しい形態である。

資本主義の腐朽は、現代帝国主義の主要国であるアメリカ合衆国に、もつともつよくあらわれている。アメリカ合衆国の独占資本は、保有生産力を利用する能力のないことを明らかに暴露している。発達した資本主義諸国のなかのもつとも豊かな国であるアメリカ合衆国は、とくに顕著な慢性失業の存在する国になっている。アメリカでは、工業の操短が深刻になり、常時の現象になっている。勤労者の生活水準を犠牲にして実施される軍事費の巨大な増加にもかかわらず、戦後の諸年度には生産増加の速度は緩慢になり、かろうじて人口の増加を追いこしている状態である。過剰生産恐慌はひんばんになっている。もつとも工業の発達した資本主義国は、もつとも片輪な軍事化された経済をもつ国になってしまっている。アメリカ合衆国は、どの資本主義国よりも多く、アジアと、とくにラテン・アメリカの諸国から富をすいあげ、これらの国の発展を妨げている。アメリカ資本のアフリカへの浸透がつよまっている。アメリカ帝国主義は、最大の国際的搾取者となっている。

アメリカ帝国主義は、軍事ブロックと経済「援助」政策をおも手段として利用しながら、多くの国ぐにをその支配下に従属させようとしている。アメリカ帝国主義は発達した資本主義国の主権

さえ侵害している。アメリカ帝国主義と同盟を結んでいる高度に発達した資本主義諸国の支配的独占ブルジョアジーは、アメリカ帝国主義者の支援のもとに、革命的解放勢力を抑圧し、勤労者から民主主義的自由を奪いとり、社会進歩をめざす人民大衆の闘争を阻止しようとして、自国の主権を犠牲にしているのである。アメリカ帝国主義は、これらの国ぐにを、軍備拡張と社会主義国および中立国にたいする新しい侵略戦争準備政策と破壊活動の政策に引込みつつある。

資本主義制度の足場がひどく腐朽してしまつたので、多くの国の支配的帝国主義ブルジョアジーは、自力では、成長し団結しつつある民主主義と進歩の勢力に対抗できなくなっている。帝国主義者たちは、協力して社会主義陣営とたたかい、民族解放運動、労働運動、社会主義運動を弾圧するために、アメリカを盟主とする軍事的・政治的同盟に結集している。最近数年間の国際的諸事件の経過は、アメリカ帝国主義が、世界反動の支柱であり、国際的憲兵であり、全世界の人民の敵であることをしめす多くの新しい証拠を提供している。

アメリカ合衆国がつくり出した軍事ブロック体制は、加盟国間の闘争によって、また、このブロックの解消をめざす大衆のたたかいによって弱体化している。アメリカ帝国主義者は、侵略ブロックを強化しようとしているが、それは大衆のますますはげしい反抗をよびおこしている。資本主義世界の経済におけるアメリカの比重は低下しているが、しかし、アメリカは依然として現代帝国主義の経済的・金融的・軍事的主力である。イギリスとフランスの帝国主義者は、自己の地位を維持するためにがん強にたたかっている。アメリカ独占体と緊密に結びついている西ドイツと日本の独占体は、力を回復して海外拡張に乗り出している。西ドイツの独占体は、自分の帝国主義的政策を実

行しつつ後進国の搾取をますます積極的にすすめるようとしている。

各国人民はますます決然として、帝国主義に反対する闘争に立ち上がりつつある。労働と資本、民主主義と反動、自由と植民地主義の諸勢力のあいだの大闘争がくりひろげられている。キューバにおける深刻な人民革命の勝利は、ラテン・アメリカ諸国の人民にとってすばらしい模範になっている。アフリカでは自由と民族独立をめざす植民地主義反対運動が破竹の勢いで広がっている。イラクでは、帝国主義反対の民族的ほう起が成功した。日本では、日米軍事同盟に反対する平和、民主主義、民族独立をめざす人民大衆の力強い運動が展開された。イタリア人民大衆の民主主義擁護の積極的行動は、勤労者の戦闘的決意を物語っている。フランスでは個人独裁の反動体制に反対し、民主主義を守る闘争がつよまっている。アメリカ、アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、インド、イギリス、カナダ、ベルギー、その他の資本主義諸国では、労働者の大ストライキがくりひろげられている。アメリカ合衆国では、生活権の獲得をめざす黒人の行動が大衆的なものになってきている。スペインとポルトガルではファシスト独裁に反対する民族勢力統一の機運がつよくなっている。ギリシャの民主運動もつよまっている。コロンビアとベネズエラでは、軍事専制が打倒され、南朝鮮とトルコでは、おおつびらな親米カイライ政府に打撃が加えられた。南ベトナムとラオスでは、アメリカ帝国主義者とその忠僕たちに反対する民族・民主運動がもり上がっている。インドネシア人民は、国内に残存している帝国主義者の経済的地歩、とくにオランダ植民地主義者の地歩を一掃しつつある。平和擁護の大衆運動は発展して、すべての大陸をおおっている。すべてこれらのことは、反帝闘争、民族解放闘争、反戦闘争、および階級闘争の波がますます高まっていることを

明白に立証している。

人類の三分の一を包含するヨーロッパとアジアの多くの国々にでの社会主義の勝利、社会主義のためにたたかっている全世界の勢力のたくましい成長、社会主義との経済競争における帝国主義の地位の不断の弱化、民族解放闘争の新しい大きな高まりと、速度を早めつつある植民地体制の崩壊、資本主義世界経済体制全体の不安定性の増大、国家独占資本主義の発展および軍国主義の成長の結果としての資本主義の矛盾の激化、独占体と民族全体の利益とのあいだの矛盾の深刻化、ブルジョア民主主義の圧縮、専制のおよびファシズム的な統治方法への傾向、ブルジョア的な政治とイデオロギーの深刻な危機——これらすべては、資本主義の全般的危機の発展が新しい段階にはいったことをしめしている。この新しい段階の特徴は、この段階が世界戦争との関連で生じたのではなく、二つの体制の競争と闘争、ますます増大する社会主義に有利な力関係の変化、帝国主義のすべての矛盾の極度の激化という状況のもとで生じたという点にある。また、平和共存の実現と強化をめざす平和勢力の成功したたかいのために、帝国主義者が侵略行為によって全般的平和をさせつことができなかったという状況のもとで、そして民主主義、民族解放、社会主義をめざす広範な人民大衆のたたかいが高まりつつある状況のもとで、これが生じたという点にある。

帝国主義的な抑圧と搾取に対抗して、すべての革命勢力が統一されつつある。社会主義と共産主義を建設している諸国民、資本主義諸国における労働者階級の革命運動、被圧迫諸国民の民族解放闘争、一般民主主義的運動など——現代のこれらすべての偉大な諸勢力は一つの流れに合流して、帝国主義世界体制を侵しよくし、これを破壊しつつある。こんにちの時代の中心になっているの



は、国際労働者階級とその主要な所産である社会主義世界体制である。この二つは平和、民主主義、民族解放、社会主義および人類進歩をかちとる闘争における勝利の保障である。

## 二

社会主義世界体制は、新しい発展段階にはいった。ソ連は、共産主義社会の全面的な建設を成功のうちに遂行しつつある。社会主義陣営の他の国々には成功のうちに社会主義の基礎をきずいており、これらのうちの若干は発展した社会主義社会を建設する段階にすでにはいつている。

社会主義は、体制全体として決定的な勝利をおさめている。これらの勝利は、マルクス・レーニン主義の勝利を意味しており、マルクス・レーニン主義にもとづいて組織された社会が、経済と文化の繁栄、高い生活水準、そして平和で幸福な暮らしをきずくために無限の可能性を開くことを、資本主義のくびきに悩んでいる各国人民に明らかに示している。

ソ連国民は国民経済発展七ヵ年計画を成功のうちに果たしつつ、共産主義の物質的・技術的基礎を急速度でつくりあげている。ソ連の科学は、世界文明の発展に新しい時代を開いた。ソ連は宇宙開発の端緒を開いて、社会主義陣営が経済的・技術的にいかに強力なものであるかを明らかに示した。ソ連は歴史上はじめて人類のために共産主義の道をきり開いている。ソ連は平和、民主的自由、民族独立、社会進歩のためにたたかう世界各国人民のもっとも輝かしい模範であり、もっとも強力なとりである。

中国の人民革命は、アジアにおける帝国主義の地位に壊滅的な打撃をあたえ、世界の力関係を社

会主義に有利に変化させることを大きく促進した。中国革命は、民族解放運動に新しい大きな衝撃をあたえ、各国人民、とくにアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民に大きな影響をあたえた。

偉大なソ連とともに強大な社会主義陣営を形づくっている各人民民主主義共和国、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国、ベトナム民主共和国、中国、朝鮮民主主義人民共和国、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、チェコスロバキア社会主義共和国は、みじかい歴史的期間のうちに社会主義建設面で巨大な成果をおさめている。

これら各国の人民権力は、不動の強固さを示した。ここでは社会主義的生産関係が国民経済で支配的な役割を果たし、人間による人間の搾取が永久に一掃されたか、成功のうちに一掃されつつある。社会主義的工業化政策が首尾よく実行されて、社会主義諸国の経済はさかえ、資本主義国よりはるかにはやい速度で発展している。これらの国はすべて発達した工業をもつようになり、かつては農業国であったのに、すでに工業・農業国にかわったか、あるいは現在かわりつつある。

過去数年間に、すべての人民民主主義諸国では農民を零細な個人経営の道から大規模な社会主義的協同組合経営の道へ自発的に移行させるといふ、社会主義建設のもっとも困難な問題が、すでに解決されたか、あるいは首尾よく解決されつつある。レーニンの協同組合計画は、農民が土地私有制に深くしびりつけられている長い伝統のある国々にとっても、また最近封建的関係をうちやぶった国々にとっても、大きな生命力をもっていることが実証された。労働者階級に指導される労働者の兄弟的同盟が強化されたが、レーニンが教えたとおりの、この同盟を支持し強化することはプロレタリアート独裁の最高の原則である。社会主義制度の政治的基礎であるこの二つの労働者階級の

同盟は、社会主義建設の過程において不断に発展しており、労働者階級が指導する人民権力をさらに強化し、農民を自由意思によって協同組合に組織するというレーニン原則にもとづいて、農業の社会主義的改造を促進している。

社会構成には歴史的な変化がおこった。人民民主主義諸国にはもはや地主階級も資本家階級も存在しない。労働者階級は社会の主要な勢力となり、その隊列は増大し、その自覚と政治的成熟はたかまつた。社会主義は農民をいく世紀にもわたる貧乏から救い、社会進歩への積極的な力にした。労働人民と血のつながりをもつ新しい社会主義インテリゲンチアがそだっている。国民はみな、自由に知識と文化を身につけることができるようになった。こうして社会主義は、社会の文化的発展のために、また人間の才能を多面的かつ完全にのばすために、政治的条件ばかりでなく物質的条件をもつくりだしたのである。経済が成功裏に発展しているため、国民大衆の物質的生活水準はたえずたかまつている。

多民族の社会主義諸国では、すべての民族の勤労者のあいだのかたい同盟が生まれ、強化された。社会主義諸国におけるマルクス・レーニン主義的民族政策の勝利、諸民族の真の平等、諸民族の経済と文化の高揚は、民族抑圧に反対してたたかう諸民族を激励する模範である。

人民民主主義諸国では、ブルジョア・イデオロギーにたいする社会主義的イデオロギーの闘争の面でいちじるしい成果をあげた。このたたかいは長期的性質をもっており、ブルジョア・イデオロギーの残存物が人間の意識から完全にとりのぞかれるまでつづけられるであろう。

歴史上、はじめてソ連で生まれ強固になった社会の精神的・政治的統一は、いま他の社会主義諸

国でも強まつている。その結果、自由な勤労者の創造的エネルギーを生産力の向上と社会主義社会の繁栄のために、もつとも効果的につかうことができるようになっていく。

社会主義社会はたえず完成され、ますます成熟したものになり、ここでは労働にたいする共産主義的態度をはじめ、その他のきたるべき共産主義社会の要素が毎日のように生まれている。社会主義経済の指導と計画化の方法は、ますます充実したものになっている。社会主義的民主主義はいつそうひろがり、経済と文化の建設の指導への人民大衆の参加がますます拡大され、国家の個々の機能はしだいに社会団体の手にうつされている。

現在では、ソ連ばかりでなく他の社会主義諸国でも、資本主義を復活させるような社会的・経済的可能性はとりのぞかれている。社会主義陣営の団結した力は、個々の社会主義国を帝国主義反動の主権侵害から確実にまもる保障である。このように社会主義国がひとつの陣営に結集し、この陣営の統一が強化され、その力がたえずたかまつているということは、社会主義体制全体における社会主義の完全な勝利を保障している。

この数年間に労働者階級と農民の英雄的な労働と、共産党・労働者党の巨大な活動の結果、生産力をこんごとも急速にたかめ、資本主義との平和な経済競争で社会主義諸国が時間を最大限に自分に有利に使い、この競争に勝つためのきわめて有利な客観的な可能性が生まれている。社会主義諸国家の先頭にたっているマルクス・レーニン主義諸党は、この可能性をたくみにしかも正しく利用することを自分の義務とみなしている。

各国共産党は幾多の大勝利をはくし、重大な試練をへて、社会主義建設の指導で豊かな多面的な

経験をつんだ。社会主義諸国ならびに社会主義陣営全体が成功をおさめたのは、それぞれの国の歴史的特殊性と社会主義体制全体の利益を考慮しつつ、社会主義建設の共通の法則を正しく適用したからであり、これら諸国民の努力とその緊密な兄弟的協力と、国際的相互援助をおこなってきたからであり、そしてまず第一にソ連が兄弟的な国際的援助をおこなってきたからである。

社会主義諸国の発展の経験がかさねてしめしているように、これらの国が実績と成果をあげるうえでもっとも主要な国際的条件は、たがいに援助しあい、支持しあうことであり、社会主義陣営の統一と団結から生まれるすべての優越性を利用することである。社会主義陣営は分裂するかもしれないという帝国主義者、変節者、修正主義者どもの期待は砂上の楼閣であって、結局裏切られる運命にある。すべての社会主義国は、社会主義陣営の統一をひとみのように大切にまもっている。

社会主義の世界経済体制は社会主義的生産関係の共通性で結ばれ、社会主義の経済法則にしたがって発展している。この体制を成功のうちに発展させるためには次のことが必要である。均衡のとれた計画的発展の法則を社会主義建設に一貫して適用すること、人民大衆の創意を発揮させること、自発性と互恵と科学・技術水準の全面的発展を基礎とする社会主義世界体制内における国民経済計画の調整、生産の専門化、および協業化によって国際的分業体系をたえず充実させていくこと、集団的経験を研究すること、協力と兄弟的な相互援助を強めること、以上のことにもとづいて歴史的に形成された経済発展水準の差異をしいに克服し、そして社会主義体制内の諸民族が、多かれ少なかれ同時に共産主義へ移行するための物質的基礎をきずきあげることなのである。

各国の社会主義建設の実践にもとづいて、社会主義陣営全体の集団的経験がたくわえられた。各

兄弟党がこの経験を全面的に研究し、具体的な条件と民族的特殊性を考慮にいれて、それを創造的に適用し、豊かにすることは、各社会主義国の発展の不動の法則である。

工業と農業の絶対生産量の点で、資本主義世界体制を追い越し、ひきつづいて人口一人あたりの生産水準および生活水準の点で、もっとも経済的に進んだ資本主義諸国を追い越すという歴史的な課題、これを力を合わせて短期間にやりとげるために、その国の可能性とにらみあわせて、各国の工業生産と農業生産を急速度に発展させるとともに、社会主義体制の優越性と各国内の資源をあますところなく利用することを、社会主義諸国の共産党と労働者党は自分の国際的義務とみなしている。この課題を果たすためには、政治活動と経済活動を不断に向上させ、国民経済の指導方法をたえず改善し、また科学的な裏づけをもつ社会主義的経営をおこなうことが必要である。すなわちたえまない技術進歩にもとづいたあらゆる手段で労働生産性を高めること、計画的に経済を運営すること、人びとの物質的利益を尊重し、また大衆の政治意識を高めることによって社会の幸福のために働くという精神的な刺激を全面的に発展させる、というレーニンの諸原則を厳守すること、労働と消費の規準にたいする統制を実施することが必要である。

社会主義諸国が共産主義へ移行するために欠くことのできない物質的基礎となるのは、最新の進んだ技術、国民経済の電化、生産の機械化と自動化にもとづいて高い生産水準をつくり出すことである。これなくしては共産主義社会に必要な、ありあまるほどの消費物資を生産することはできない。これをもとにして、共産主義的社会関係を発展させ、国民大衆の政治意識をあらゆる方法で高め、新しい共産主義社会の人間を養成しなければならぬ。

社会主義陣営とは、社会主義的・国際的連帯のかたいきずな、共通の利害と目的で結ばれており、社会主義と共産主義の道をすすんでいる、主権をもつ自由な諸民族の社会的・経済的・政治的な共同体である。社会主義諸国家間の相互関係における不動の法則は、マルクス・レーニン主義、社会主義的国際主義の諸原則をかたく守ることである。社会主義陣営では、この陣営にはいつている国ぐにの真の平等と自主性が保障されている。社会主義諸国家は完全平等、互恵、同志的相互援助の諸原則を指針として全面的な経済的・政治的・文化的協力を完成しつつあるが、これは各社会主義国と社会主義陣営全体の利益に合致するものである。

階級的敵対関係がなくなるにつれて、諸民族間の敵対関係もなくなるといふマルクス・レーニン主義の命題が実際に立証されたことは、社会主義世界体制がたたかいとつた偉大な成果の一つである。軍事的衝突へと導く階級間、民族間、国家間の敵対的な矛盾は、資本主義制度に固有な法則であるが、それとは反対に、社会主義体制は、この体制内の諸民族や国家間に対立と紛争をひきおこす客観的な原因を本質的にもっていない。社会主義体制の発展は諸国家と諸民族間のいつその團結、それらの間のあらゆる形の協力の強化をもたらし、社会主義は民族の経済、文化、国家の発展と社会主義世界体制全体の強化発展、および諸民族のいつその團結を有機的に結びつける。社会主義体制全体の利益とそれぞれの社会主義国の国民の利益とは、調和的に結びついている。この基礎の上に、偉大な社会主義共同体に加わっている諸民族の精神的・政治的統一が生まれ、強化されている。また、資本主義につきものの政治的孤立と民族的利己主義にかわって、社会主義制度の生み出した諸民族の兄弟的友好と相互援助の關係がつくられている。

社会主義諸国の国民に共通した利益と社会主義および平和の事業の利益からみて必要とされるのは、社会主義的国際主義の原則と社会主義的愛国主義の原則とを政治面で正しく結合することである。国家の指導的政党となった各国共産党は、自国の運命と同様に社会主義陣営全体の運命にたいしても歴史的な責任をおっている。

一九五七年の宣言にまったく正しく指摘されているとおり、民族的特殊性の役割を過大視し、社会主義革命と社会主義建設にかんするマルクス・レーニン主義の普遍的真理から離れることは、社会主義の共通の事業にとって有害である。同時にまた一九五七年の宣言に正しくのべられているように、マルクス・レーニン主義は社会主義革命と社会主義建設の共通の原則を各国の具体的な歴史的条件に応じて創造的に適用することを要求しており、他国の共産党の政策と戦術を機械的に模倣はうすることを許さない。プロレタリアの党が民族的特殊性を無視するならば、実際からはなれ、大衆から浮き上がって、社会主義の事業に害毒を流すことになる。

民族主義と民族的偏狭性のあらわれは、社会主義制度が樹立されると自動的に消えてゆくものではない。社会主義諸国間の兄弟的関係と友好を強化するためには、共産党・労働者党のマルクス・レーニン主義的、国際主義的政策が必要であり、国際主義と愛国主義を結合するという精神で全労働者を教育し、ブルジョア民族主義と排外主義の残存物をなくすために徹底的にたたかうことが必要である。

各国の共産党・労働者党は、社会主義的国際主義の精神で、また民族主義と排外主義のすべてのあらわれにたいして妥協しないという精神で、全勤労者をたゆまず教育している。社会主義諸国の

共産党・労働者党および国民の団結と統一、マルクス・レーニン主義学説にたいする忠誠、これこそ社会主義諸国および社会主義陣営全体の力と無敵さのおもな源泉である。

社会主義諸国の国民は共産主義への道を開きながら、全人類のために新しい社会の模範をつくりあげている。資本主義世界の勤労者は、社会主義と共産主義の建設者の創造的な活動を深い関心をもって見まもっている。したがって社会主義諸国のマルクス・レーニン主義党と国民は、国際労働運動にたいして社会主義と共産主義の建設を成功させる責任をもっているわけである。

各国の共産党・労働者党は、世界的諸事件の経過にたいする国際的役割と影響力を年とともに高めている諸民族の偉大な社会主義的共同体をうむことなく強化することを自己の任務とみなしている。

社会主義諸国家が世界体制をつくりあげ、世界の発展に強力な作用を与える国際的な力になった時代が到来している。今日のきわめて重要な諸問題を、平和と民主主義と社会主義の利益のために、新たなしかたで解決する現実的な可能性が生まれている。

### 三

われわれの時代のもっともさしせまった問題は、戦争と平和の問題である。

戦争はつねに資本主義の同伴者である。人が人を搾取する制度と人が人を殺す制度は、資本主義制度の二つの側面である。帝国主義は、すでに二度も人類を破滅的な戦争に引入れ、いままた、さらにおそろべき破局に人類をおとし入れようとしている。恐るべきみな殺しと破壊の兵器がつくり

あげられている。新戦争でこうした兵器が使われるなら、国々にの全土が空前の破壊をうけ、世界の生産と文化の大きな中心地が廃墟と化すであろう。このような戦争がおければ、参戦しない国々にのんびりとをもふくめ、幾億、幾千万もの人びとに破壊と破壊をもたすだろう。帝国主義は、全人類に重大な危険をもたらしている。

現在、各国人民にとっては、どんなときにもまして、特別に高い警戒心をもつことが必要である。帝国主義が存在しているかぎり、侵略戦争の根源はなくなるならない。

すべての国の人民は、新しい世界戦争の危険がまだ去っていないことを知っている。侵略と戦争の主勢力は、アメリカ帝国主義である。アメリカ帝国主義は、その政策のなかに好戦的な反動勢力のイデオロギーを体现している。アメリカ帝国主義は、「共産主義の脅威」からの防衛という名目のもとに、イギリス、フランス、西ドイツの帝国主義者と協力して、多くの国をNATO（北大西洋条約機構）、CENTO（中央条約機構）、SEATO（東南アジア条約機構）その他の軍事ブロックに引込み、いわゆる「自由世界」全体、つまりアメリカ帝国主義に従属している資本主義諸国に、なによりもまず社会主義諸国へ鋒先をむける軍事基地網をはりめぐらした。これらの軍事ブロックや基地の存在は、全般的な平和と安全を脅威にさらし、アメリカの軍事基地のために自国領土を提供している国々にの主権をふみにじっているだけではなく、それらの国の存在そのものに脅威をあたえている。

アメリカ、イギリス、フランスの帝国主義勢力は西ドイツの帝国主義と犯罪的な陰謀をおこなってきた。西ドイツでは軍国主義が復活し、ヒトラーの元將軍たちの指揮のもとに大量の正規軍の復

活が急速にすすみ、アメリカ帝国主義はこれらの軍隊をロケット核兵器にいたる最新的大量殺人手段で武装している。これにたいして平和愛好諸国民のはげしい抗議の波がますます高まっている。フランスでも、その他の西ヨーロッパ諸国でも、この侵略的軍隊に軍事基地が提供されている。ヨーロッパの諸国民の平和と安全にたいする西ドイツ帝国主義の脅威がつよまっている。西ドイツの報復主義者は、第二次大戦後に定められた国境線を改定するという意図を公然と言明している。西ドイツの軍国主義者はかつてのヒトラー一味と同様に、ヨーロッパの社会主義諸国およびその他のヨーロッパ諸国にたいして戦争を準備しており、独自の侵略計画を実現しようとしている。西ベルリンは国際的挑発の策源地になっている。ボン国家はヨーロッパにおける平和共存、軍縮、緊張緩和の主要な敵となっている。

西ドイツ帝国主義の侵略的計画にたいしては、ヨーロッパのすべての平和愛好的な諸国家と人民の統一された力をもって対抗しなければならない。西ドイツ軍国主義の侵略的志向とたたかううえで、ドイツ民主共和国の役割はとくに大きい。会議の参加者は、西ヨーロッパにおける社会主義の前哨であり、ドイツ人民の平和を愛する意思の眞の代表者であるドイツ民主共和国の不可侵を守ることを社会主義陣営のすべての国家およびすべての平和愛好諸国民の義務と考える。

アメリカ帝国主義者は、極東でも戦争の策源地を積極的に復活させている。かれらは日本の反動的支配者集団とぐるになって、日本人民の民族独立をふみにじり、また日本人民の意思に反して、日本に新たな軍事条約をおしつけたが、この条約は、ソ連、中華人民共和国、その他の平和愛好諸国家にたいし、侵略的目的を追求するものである。アメリカの侵略者は、中華人民共和国の領土で

ある台湾と、南朝鮮とを占領し、南ベトナムにたいする内政干渉をつよめて、これを危険な軍事的挑発と冒険の策源地にしてしまっている。アメリカ帝国主義者は、キューバを侵略によっておどかし、ラテン・アメリカ、アフリカ、近東の諸国民の内政に干渉することによって、世界各地で戦争の新しい策源地をつくろうとしている。アメリカ帝国主義者は、自分の経済的・政治的支配を保持し、侵略的陰謀の実現にラテン・アメリカ諸国を引き入れるために、米州機構のような地域的同盟の形態を利用している。

巨大な軍事機構をつくりあげたアメリカ帝国主義は、この機構を縮小することをのぞまない。帝国主義者は、軍縮を目的とするソ連および他の平和愛好諸国家の建設的な提案をすべて握りつぶしている。軍拡競争があいもかわらずつづいている。核兵器の保有量は、恐ろしいまでにふえている。フランスの支配者集団は、自国および他国の人民、とくにアフリカ大陸の各国人民の反対にもかかわらず、原子兵器の製造と実験に着手した。アメリカの軍閥は、破滅的な核兵器の実験を再開しようとしており、重大な国際的紛争の危険をはらむ軍事挑発行為が依然としておこなわれている。

アメリカの支配者集団は、挑発と侵略行為によって、パリの首脳会談を決裂させ、国際緊張を強め、冷戦を激化させる方針をとっている。戦争の危険はつよまっている。平和をおびやかす帝国主義的挑発は、各国人民の憤激と抵抗をひきおこした。アメリカ帝国主義は、さらにいっそう正体をさらけだし、世界におけるその影響力はさらに大きな打撃をうけた。

帝国主義の侵略的本性はかわってはいない。しかし、その侵略政策をさせつさせることのできる

現実的な勢力がすでに形成されている。戦争の宿命的な不可避性は存在しない。もしも、帝国主義者の思うようになるものならば、かれらはすでに、人類を新戦争の不幸と惨禍のなかに投げ込んでしまっていたであろう。しかし、戦争をやるかやらないかを帝国主義者が勝手に決定できる時代は過ぎ去った。近年、帝国主義者が局地戦争をばつ発させ、それによって人類を世界的な破滅の瀬戸ぎわに追い込んだことは一度や二度ではなかった。ソ連その他の社会主義諸国家と、すべての平和愛好勢力が、断固とした態度をとったために、イギリス、フランス、イスラエルのエジプト干渉に終止符が打たれ、シリア、イラク、その他のいくつかの国への帝国主義者の軍事的侵入が阻止された。英雄的なアルジェリア人民は、独立と自由のために勇敢な闘争をつづけている。コンゴやラオスの人民は、帝国主義者の犯罪的行為にますます強い反撃を加えている。帝国主義者のひきおこす局地戦争と効果的にたたかい、この種の戦争の策源地をとりのぞくことはできる。これは経験の示しているところである。

世界戦争をはじめようとする帝国主義的侵略者のたくらみを阻止できるときがきた。社会主義の世界陣営、国際労働者階級、民族解放運動、戦争に反対するすべての国、すべての平和愛好勢力が共同で努力をすれば、世界戦争を防止することができる。

現在、国際関係の発展を決定するものは、二つの社会体制のたたかいであり、帝国主義と反動と侵略の諸勢力にたいする社会主義、平和、民主主義の諸勢力のたたかいである。このたたかいにおける社会主義と平和と民主主義の諸勢力の優位は、ますますはっきりしてきている。

有史以来はじめて、偉大な組織された勢力が、反戦闘争をおこなっている。これらの勢力とは

科学・技術の決定的部門で世界一の地位を占めた強大なソビエト連邦、膨大な物質力と政治力を平和のために使っている全社会主義陣営、平和の維持にふかい特別な利害関係をもっているアジア、アフリカ、ラテン・アメリカのますます増大する平和愛好諸国家、国際労働者階級とその組織、なによりもまず各国共産党、植民地・従属国の民族解放運動、世界的な平和擁護運動、戦争挑発の帝国主義的方针にくみせず平和共存を主張している中立諸国などである。現在の力関係と現代戦の恐ろしい結末を冷静に判断する発達した資本主義諸国の一部のブルジョアジーも、平和共存の政策を支持している。世界平和を維持するためには、アメリカ帝国主義に鼓舞される侵略と戦争の帝国主義的政策とたたかう平和擁護者のもっとも広範な統一戦線が必要である。すべての平和勢力が共同して、積極的に行動すれば、平和を維持し、新戦争を防止することができる。

すべての民主的・平和愛好勢力にとっては、人類を世界的な熱核戦争の破局から守ること以上に切実な課題はない。現代軍事技術の比類のない破壊力からみて、すべての反戦・平和愛好勢力の基本的行動を、戦争防止に集中することが強く要求されている。反戦闘争を戦争がばつ発する時までのはしてはいけない。というのは、世界の多くの地域とその住民にとっては、その時ではあまりにも手おくれだからである。新世界戦争の危険にたいするたたかいは、原水爆が投下されないうちにおこなわれなければならない。このたたかいは、いま、おこなう必要があり、そのための努力を日とともにかさねていかなければならない。手おくれにならないうちに侵略者をおさえ、戦争を防ぎ、それをおこなせないことがもっとも大切である。

いま、平和のためにたたかうことは、とりもなおさず、最大の警戒心を維持し、うむこと

活が急速にすすみ、アメリカ帝国主義はこれらの軍隊をロケット核兵器にいたる最新的大量殺人手段で武装している。これにたいして平和愛好諸国民のはげしい抗議の波がますます高まっている。フランスでも、その他の西ヨーロッパ諸国でも、この侵略的軍隊に軍事基地が提供されている。ヨーロッパの諸国民の平和と安全にたいする西ドイツ帝国主義の脅威がつよまっている。西ドイツの報復主義者は、第二次大戦後に定められた国境線を改定するという意図を公然と言明している。西ドイツの軍国主義者はかつてのヒトラー一味と同様に、ヨーロッパの社会主義諸国およびその他のヨーロッパ諸国にたいして戦争を準備しており、独自の侵略計画を実現しようとしている。西ベルリンは国際的挑発の策源地になっている。ボン国家はヨーロッパにおける平和共存、軍縮、緊張緩和の主要な敵となっている。

西ドイツ帝国主義の侵略的計画にたいしては、ヨーロッパのすべての平和愛好的な諸国家と人民の統一された力をもって対抗しなければならない。西ドイツ軍国主義の侵略的志向とたたかううえで、ドイツ民主共和国の役割はとくに大きい。会議の参加者は、西ヨーロッパにおける社会主義の前哨であり、ドイツ人民の平和を愛する意思の真の代表者であるドイツ民主共和国の不可侵を守ることを社会主義陣営のすべての国家およびすべての平和愛好諸国民の義務と考える。

アメリカ帝国主義者は、極東でも戦争の策源地を積極的に復活させている。かれらは日本の反動的支配者集団とぐるになって、日本人民の民族独立をふみにじり、また日本人民の意思に反して、日本に新たな軍事条約をおしつけたが、この条約は、ソ連、中華人民共和国、その他の平和愛好諸国家にたいし、侵略的目的を追求するものである。アメリカの侵略者は、中華人民共和国の領土で

ある台湾と、南朝鮮とを占領し、南ベトナムにたいする内政干渉をつよめて、これを危険な軍事的挑発と冒険の策源地にしてしまっている。アメリカ帝国主義者は、キューバを侵略によっておどかし、ラテン・アメリカ、アフリカ、近東の諸国民の内政に干渉することによって、世界各地で戦争の新しい策源地をつくろうとしている。アメリカ帝国主義者は、自分の経済的・政治的支配を保持し、侵略的陰謀の実現にラテン・アメリカ諸国を引き入れるために、米州機構のような地域的同盟の形態を利用している。

巨大な軍事機構をつくりあげたアメリカ帝国主義は、この機構を縮小することのぞまない。帝国主義者は、軍縮を目的とするソ連および他の平和愛好諸国家の建設的な提案をすべて握りつぶしている。軍拡競争があいもかわらずつづいている。核兵器の保有量は、恐ろしいまでにふえている。フランスの支配者集団は、自国および他国の人民、とくにアフリカ大陸の各国人民の反対にもかかわらず、原子兵器の製造と実験に着手した。アメリカの軍閥は、破滅的な核兵器の実験を再開しようとしており、重大な国際的紛争の危険をはらむ軍事挑発行為が依然としておこなわれている。

アメリカの支配者集団は、挑発と侵略行為によって、パリの首脳会談を決裂させ、国際緊張を強め、冷戦を激化させる方針をとっている。戦争の危険はつよまっている。平和をおびやかす帝国主義的挑発は、各国人民の憤激と抵抗をひきおこした。アメリカ帝国主義は、さらにいつそう正体をさらけだし、世界におけるその影響力はさらに大きな打撃をうけた。

帝国主義の侵略的本性はかわってはいない。しかし、その侵略政策をさせつさせることのできる



現実的な勢力がすでに形成されている。戦争の宿命的な不可避性は存在しない。もしも、帝国主義者の思うようになるものならば、かれらはすでに、人類を新戦争の不幸と惨禍のなかに投げ込んでしまっていたであろう。しかし、戦争をやるかやらないかを帝国主義者が勝手に決定できる時代は過ぎ去った。近年、帝国主義者が局地戦争をばっ発させ、それによって人類を世界的な破滅の瀬戸ぎわに追い込んだことは一度や二度ではなかった。ソ連その他の社会主義諸国家と、すべての平和愛好勢力が、断固とした態度をとったために、イギリス、フランス、イスラエルのエジプト干渉に終止符が打たれ、シリア、イラク、その他のいくつかの国への帝国主義者の軍事的侵入が阻止された。英雄的なアルジェリア人民は、独立と自由のために勇敢な闘争をつづけている。コンゴやラオスの人民は、帝国主義者の犯罪的行為にますます強い反撃を加えている。帝国主義者のひきおこす局地戦争と効果的にたたかい、この種の戦争の策源地をとりのぞくことはできる。これは経験の示しているところである。

世界戦争をはじめようとする帝国主義的侵略者のたくらみを阻止できるときがきた。社会主義の世界陣営、国際労働者階級、民族解放運動、戦争に反対するすべての国、すべての平和愛好勢力が共同で努力をすれば、世界戦争を防止することができる。

現在、国際関係の発展を決定するものは、二つの社会体制のたたかいであり、帝国主義と反動と侵略の諸勢力にたいする社会主義、平和、民主主義の諸勢力のたたかいである。このたたかいにおける社会主義と平和と民主主義の諸勢力の優位は、ますますはっきりしてきている。

有史以来はじめて、偉大な組織された勢力が、反戦闘争をおこなっている。これらの勢力とは

科学・技術の決定的部門で世界一の地位を占めた強大なソビエト連邦、膨大な物質力と政治力を平和のために使っている全社会主義陣営、平和の維持にふかい特別な利害関係をもっているアジア、アフリカ、ラテン・アメリカのますます増大する平和愛好諸国家、国際労働者階級とその組織、なによりもまず各国共産党、植民地・従属国の民族解放運動、世界的な平和擁護運動、戦争挑発の帝国主義的方针にくみせず平和共存を主張している中立諸国などである。現在の力関係と現代戦の恐ろしい結末を冷静に判断する発達した資本主義諸国の一部のブルジョアジーも、平和共存の政策を支持している。世界平和を維持するためには、アメリカ帝国主義に鼓舞される侵略と戦争の帝国主義的政策とたたかう平和擁護者のもっとも広範な統一戦線が必要である。すべての平和勢力が共同して、積極的に行動すれば、平和を維持し、新戦争を防止することができる。

すべての民主的・平和愛好勢力にとっては、人類を世界的な熱核戦争の破局から守ること以上に切実な課題はない。現代軍事技術の比類のない破壊力からみて、すべての反戦・平和愛好勢力の基本的行動を、戦争防止に集中することが強く要求されている。反戦闘争を戦争がばっ発する時までのはしてはいけない。というのは、世界の多くの地域とその住民にとっては、その時ではあまりにも手おくれだからである。新世界戦争の危険にたいするたたかいは、原水爆が投下されないうちにおこなわれなければならない。このたたかいは、いま、おこなう必要があり、そのための努力を日とともにかさねていかなければならない。手おくれにならないうちに侵略者をおさえ、戦争を防ぎ、それをおこなうことがもっとも大切である。

いま、平和のためにたたかうということは、とりまなおさず、最大の警戒心を維持し、うむこと

なく帝国主義の政策を暴露し、戦争挑発者の陰謀と策動をするべく追及し、戦争を方針としているものにたいして各国人民の神聖な怒りをよびおこし、すべての平和勢力の組織性と平和擁護のための大衆の積極的行動をたえまなく強め、新戦争をのぞまないすべての国家と協力関係をかためるということである。帝国主義者が軍事基地をつくっている諸国では、この基地をとりはらうための闘争を強めなければならない。これは、民族独立を強化し、主権を守り、戦争を防ぐ重要な条件である。自国の軍事化に反対する各国人民の闘争は、アメリカ帝国主義者に結びついている資本主義的独占体に反対するたたかいと結合させなければならない。現在では平和擁護運動が都市でも農村でも工場でも官庁でもつねにひろがりつよまっていこうように、すべての国でねばりつよくたたかうことはいつにもまして重要なことである。平和擁護運動は今日のもっとも広範な運動であって、さまざまな政治的および宗教的信念をもつ人びとを結集している。この人びとは、異なった社会階級に属してはいるが、新戦争を防ぎ永続的な平和を打ちたてるといふ崇高な願いで結ばれているのである。社会主義世界体制がますます強化されることは、永続的な平和を維持するうえで重要な意義をもつであろう。軍縮が実現されるまでは、社会主義諸国は防衛力を必要な水準に保っていかなければならない。

軍拡競争を停止し、原子兵器の実験と製造を禁止し、在外軍事基地をとりはらい、他国にある外国軍隊を撤退させ、軍事ブロックを廃止し、ドイツと平和条約を結び、西ベルリンを非軍事化された自由都市にし、西ドイツの報復主義者の策動にとどめをさし、日本軍国主義の復活をゆるさないこと——こうしたことはなによりまず平和確保のために解決しなければならない課題である、と共

産主義者は考えている。

歴史は新しい世界戦争を防止するという重大な責任を、なによりもまず国際労働者階級に負わせている。熱核戦争をひきおこそうとして、帝国主義者はたがい陰謀をめぐらし、団結をかためている。国際労働者階級は人類を新たな世界戦争の破局から救いだすために、その隊列をかためなければならない。政治、宗教、その他の問題についてのどのような相違も、戦争の危険とたたかうために、労働者階級の全勢力を団結させる妨げとなってはならない。国際プロレタリアートのすべての部隊と組織の強大な意思と統一行動によって戦争勢力にむかい、戦争を防止し平和を守るために、国際プロレタリアートの全力を結集しなければならないときがきている。

各国共産党は、平和擁護の闘争をその第一義的な課題と考えている。各国共産党は、労働者階級、労働組合、協同組合、婦人と青年の各種団体にたいし、すべての勤労者にたいし、政治的・宗教的信念のちがいににかわりなく、帝国主義者のどのような侵略行為にも大衆闘争で断固として反撃を加えるようよびかけている。

もしも帝国主義の無分別なものが戦争をひきおこすならば、各国人民は資本主義を一掃し、葬り去ってしまうだろう。

社会主義諸国の対外政策のゆるぎない基礎となっているのは、社会主義国と資本主義国との平和共存および経済競争というレーニンの原則である。平和の条件のもとで、社会主義制度は、経済、文化、科学、技術の各分野で資本主義制度よりすぐれていることをますますひろく示している。近い将来、平和と社会主義の勢力は、新しい成功をおさめるだろう。ソ連は世界一の大工業国とな

り、中国も強大な工業国となるだろう。社会主義体制は、全世界の工業生産高の半ば以上を生産するようになるだろう。平和地域はいっそう拡大されるだろう。資本主義諸国の労働運動、植民地および従属国の民族解放運動は、新たな勝利をおさめるだろう。植民地体制は完全に崩壊するだろう。社会主義と平和の勢力の優位は、絶対的なものとなるだろう。このような条件のもとで、社会主義が全世界で完全な勝利をおさめる以前に、すなわち、世界の一部にまだ資本主義が存続しているときに、社会生活から世界戦争をなくす現実的可能性が生まれるだろう。全世界における社会主義の勝利は、あらゆる戦争のおこる社会的・民族的原因を最後のにとりのぞくだろう。

全世界の共産主義者は、一致かつ一貫して、平和共存を擁護し、戦争を防止するために決然とたたかっている。共産主義者は、世界戦争を防止する可能性の過小評価がおこらないように、平和共存の可能性の過小評価がおこらないように、同時に、また戦争の危険の過小評価がおこらないように、大衆のあいだでうまずたゆまず活動しなければならない。

世界が二つの体制にわかれていく状況のもとでは、国際関係における唯一の正しい賢明な原則は社会制度の異なる諸国の平和共存である。この平和共存の原則はレーニンによって提起され、一九五七年の「モスクワ宣言」と「平和のよびかけ」ソ連邦共産党第二十回大会と第二十二回大会の決議、および他の共産党・労働者党の文獻のなかでさらに発展させられた。

中華人民共和国とインド共和国が共同で打ちだした平和共存の五原則とバンドン会議で採択された原則は、平和と平和愛好諸国民の利益にそうものである。

異なる制度をもつ諸国家間の平和共存か、それとも破滅的な戦争か、現在では問題はこのように

だされているのである。別の出口はない。共産主義者はアメリカの冷戦および戦争瀬戸ぎわの理論を、熱核戦争の破局にみちびく政策として断固として拒否する。共産主義者は、平和共存の原則を主張し、冷戦の完全な中止、軍事ブロックの廃止、軍事基地のとりはらい、国際管理をともなう全般的かつ完全な軍縮、話し合いによる国際紛争問題の解決、諸国家の平等、その領土保全、独立と主権の尊重、内政不干涉、諸国民間の貿易、文化・科学の交流の増進などを実現しようとつとめている。

平和共存の政策はすべての国の人民、新しい流血戦争をのぞまず永続的な平和のために努力しているすべての人びとの根本的利益にそうものである。この政策は、社会主義の地位を強め、社会主義国家の威信とその国際的影響力を強化するのに役立ち、資本主義諸国の共産党の権威と影響力を高めるものである。平和は社会主義の忠実な同盟者である。なぜなら、時は社会主義に有利に、資本主義に不利に作用しているからである。

平和共存の路線は、平和の敵にたいして大衆を動員し、積極的な行動を展開する路線である。

諸国家の平和共存は、修正主義者がいつているように、階級闘争を放棄することを意味しない。社会制度の異なる諸国家間の平和共存は、社会主義と資本主義の階級闘争の一形態である。平和共存の条件のもとでは、資本主義諸国内での階級闘争の展開、さらに植民地および従属国の人民の民族解放運動の展開にとって有利な条件が生まれている。同時に、革命的階級闘争と民族解放闘争の成功は、平和共存の強化を促進する。共産主義者は、平和共存を強固なものにすることができるという人民大衆の信念と世界戦争をくい止めようというかれらの決意を固めることを、自分の義務と

みている。共産主義者は、各国人民が平和、民主主義、民族の解放をかちとるため積極的になたかうことによって、帝国主義の陣地をいっそう弱めそれをせよめるようにあらゆる方法で促進していくであろう。

社会制度の異なる国家間の平和共存は、けっして社会主義イデオロギーとブルジョア・イデオロギーの和解を意味するものではない。反対に、それは社会主義思想を勝利させるために、労働者階級とすべての共産党の闘争をつよめることを要求している。しかし諸国間のイデオロギー的・政治的紛争は戦争という手段で解決してはならない。

会議は、ソ連が提唱している全般的かつ完全な軍縮計画の実現が人類の運命にとって歴史的な意義をもつものと考えている。この計画を実現することは、諸国家が戦争をおこなう可能性そのものをなくすることを意味している。この計画の実現はなまやさしいことではない。帝国主義者がこれにがん強に抵抗している。したがって、この計画を実行に移すために、帝国主義の侵略勢力と積極的に断固としてたたかわなければならぬ。このたたかいは、ますます増大する規模において、ねばりよく、現実的な成果をおさめるようにおしすすめていかなければならない。すなわち全般的な軍縮への道を切り開く手段として、核兵器の実験と製造の禁止、軍事ブロックの廃止、在外軍事基地のとりはらい、軍隊と軍備の大幅縮小をかちとるようにおこなわれなければならない。社会主義諸国、その他の平和愛好諸国、国際労働者階級、すべての国の広範な人民大衆が積極的にかつ断固としてたたかうならば、侵略者集団を孤立させ、軍備拡張と戦争準備をさせつさせ、帝国主義者をして、全般的な軍縮について協定を結ばせることができる。

軍拡競争は戦争を阻止する要因でもなければ、人民に高い就業率と福祉をもたらす要因でもない。それは戦争へと導く。軍拡競争に関心をもっているのは、とるにたらないひとにぎりの独占資本家と戦争投機者だけである。軍事費をけずって人民大衆の生活条件改善にあてるとは、資本主義諸国の人民のつねに求めてやまないところである。どの国でも軍縮の結果として浮いてくる資金と資源を平和産業、住宅建設、保健事業、国民教育、社会保障、科学研究発展などに割りあてると、めだつて大衆運動をくりひろげなければならない。軍縮は現在、人民大衆の戦闘的要求となっており、機熟した歴史的必然となつていゝ。積極的な断固としたたたかひを通じて、帝国主義者に人民のこの要求を受け入れさせなければならない。

社会主義諸国の共産党・労働者党は、こんども社会制度の異なる国家間の平和共存の方針を一貫して実行し、各国人民を新戦争の惨禍と不幸から守るために最善をつくすであらう。これらの党は帝国主義にたいし最大の警戒心を高め、社会主義陣営全体の力量と防衛力をできるかぎり強化し、各国人民の安全を保障し、平和を維持するため、あらゆる必要な手段をとるであらう。

共産主義者は、世界的な規模で搾取と貧困をなくすこと、すべての戦争の可能性を完全に人類の社会生活からとりのぞくことだけではなく、すでにこんにちの時代に人類を新世界戦争の恐怖から救うことも自分の歴史的な使命だとみている。あらゆる国の共産党は、この偉大な歴史的使命を果たすためにそのすべての力とエネルギーをささげるであらう。

世界の広大な地域で民族解放革命が勝利した。戦後十五年のあいだにアジアとアフリカで約四十の新しい主権国家が生まれた。キューバ革命の勝利は、完全な民族解放をめざす他のラテン・アメリカ諸国人民のたたかいに強力な刺激をあたえた。人類の生活に新しい歴史的時期がはじまった。すなわちアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの解放をもちとった諸民族が国際政治に積極的に参加しはじめたのである。

植民地主義の完全な崩壊は避けられない。民族解放運動の急襲による植民地主義的どれい制度の崩壊は、歴史的意義という点からみて社会主義世界体制の成立につぐ第二の現象である。

十月社会主義大革命は東洋をめざめさせ、植民地の人民を全世界的な革命運動の共通の流れに合流させた。第二次世界戦争におけるソ連の勝利、ヨーロッパおよびアジアの一連の国における人民民主主義制度の確立、中国の社会主義革命の勝利、社会主義世界体制の成立は、この過程の進行を大いに促進した。世界社会主義の勢力は、帝国主義の抑圧からの解放をめざす植民地および従属国の人民のたたかいを決定的にたすけた。社会主義体制は、解放をもちとった国の人民の独立した民族的發展をまもるたのもしいタテとなっている。国際労働運動も民族解放運動に大きな支持をあたえている。

アジアの様相は根本的にかわった。アフリカでは植民地制度がくずれつつある。ラテン・アメリカには帝国主義との積極的な闘争の戦線がひらかれている。アジア、アフリカ、その他の地域で幾億という人びとがかちとった独立は、帝国主義とのはげしいたたかいを通じてえられたものである。共産主義者は民族解放戦争の進歩的・革命的意義をつねに認めてきたし、民族独立のためのも

っとも積極的な戦士である。社会主義世界体制が存在し、帝国主義の地位が弱まっているため、被圧迫民族のまえには独立をもちとる新しい可能性がひらかれている。

植民地諸国の人民は、各国の具体的事情に応じて武力闘争により、あるいは非軍事的方法によって自己の独立をもちとっている。植民地諸民族は、強力な民族解放運動によって、ゆるぎない勝利を獲得している。植民地をもつ国々には、植民地人民に自由をさずけることはないし、また自分が搾取している国から自発的に引揚げることはしない。

今日の植民地主義の支柱——それはアメリカ合衆国である。アメリカを頭とする帝国主義者は、旧植民地の諸民族にたいする植民地的搾取を新しい方法と新しい形態で保持しようとする。懸命である。独占地はアジア、アフリカ、ラテン・アメリカで経済的支配および政治的影響のテコを保持しようとしてゐる。かれらのねらいどころは、解放をもちとった国の経済で元の地位を保持し、経済的援助の名にかくれて新しい地位を獲得し、解放をもちとった国々に軍事ブロックに引入れ、これらの国に軍事独裁政権をおしつけ、軍事基地をつくることにある。帝国主義者はまた、解放をもちとった国々に民族主権を侵害し、骨ぬきにし、民族自決の意味をねじまげ、いわゆる相互依存を口実にして植民地支配の新しい形態をおしつけ、これらの国々にでかれらのカイライを政権につけ、一部のブルジョアジーを買収しようとしている。帝国主義者はまた民族間の離間という毒入りの武器をもって、まだ基礎のかたまっていない新興の民族国家の力を弱めようとしている。それらの目的のために、侵略的軍事ブロックや二国間の侵略的軍事同盟が積極的に利用されている。現地の搾取階級に属するもっとも反動的な集団は、帝国主義者の共謀者の役割を演じている。

植民地の抑圧のくびきを脱した諸国の民族的復興という切実な課題は、その民族の全愛国勢力を民族民主統一戦線に結集して、帝国主義と封建主義の残りを断固としてたたかうことによって初めて成功のうちに解決できる。政治的自主性の強化、農民の利益のための農地改革の実施、封建制度の遺物と残存物の一掃、帝国主義支配の経済的根源の絶滅、外国の独占体の制限とその国の経済からの駆逐、民族産業の建設と発展、人民の生活水準の向上、社会生活の民主化、自主的な平和愛好の対外政策の実現、社会主義諸国やその他の友好国との経済協力と文化交流の発展——これらは、一般的な民族民主的課題であり、この課題を基盤にして解放を勝ちとった民族の進歩的勢力は、団結することができるし、また実際に団結している。

民族解放闘争に重要な役割を果たしてきた労働者階級は、反帝民族民主革命の課題を最後までなしとげ、社会進歩を妨害しようとする反動勢力のたくらみとたたかっている。

これらの国にとって何よりもまず重要なことは、住民の大半の利益と直接のつながりのある農民問題を解決することである。徹底的な農地改革なしには食糧問題も解決できないし、農業および工業の生産力を束縛している中世紀の残りをかすをとりのぞくこともできない。これら諸国の国民経済、とくに工業部門では、外国の独占体に依存せず、しだいに国の経済的決定的要因にかわりつつある国営部門を民主的基礎のうえに創設し、これを拡大することが重要である。

労働者階級と農民の同盟は、民族独立の獲得と擁護、徹底的な民主的改革の実現、社会進歩の確保にとってもっとも重要な力である。この同盟は広範な民族戦線の基礎になる使命をもっている。民族ブルジョアジーが解放闘争に参加する度合いも、またこの同盟の力と堅固さに少なからず左右

される。帝国主義に反対し、民族独立のためにたたかおうとしている民族のなかのすべての分子、すべての民族的・愛国的勢力は、大きな役割を演じることができる。

現在の条件のもとでは、帝国主義者と結びついていない植民地・従属国の民族ブルジョアジーは、客観的には反帝・反封建革命の基本的諸課題の実現に利害関係をもっている。したがって、反帝・反封建の革命闘争に参加する能力を保持している。この意味で民族ブルジョアジーは進歩的な性格をもつ。しかし、かれらは動揺しやすく、進歩性をもつとともに帝国主義および封建主義との妥協に走りやすい。民族ブルジョアジーの二面性のゆえに、かれらがどの程度に革命に参加するかは国によってちがってくる。これは具体的条件、階級間の力関係の変化、帝国主義および封建主義と人民大衆とのあいだの矛盾のするどさ、帝国主義および封建主義と民族ブルジョアジーとのあいだの矛盾の深さに左右される。

政治的独立を獲得したあと、それらの国の人民は実生活から生ずる社会問題と民族の独立を強化する問題の解決をもとめる。異なった階級と異なった政党は、これらの問題にたいして異なった解決策を提起する。いずれの発展の道をえらぶかは各国人民がみずからきめるべきことがらである。

しかし社会的矛盾が激化するにつれて、民族ブルジョアジーは、ますます国内反動勢力および帝国主義者との妥協にかたむいていく。だが人民大衆は、非資本主義的発展の道こそ幾世紀のたちおくれをとりかえし、生活条件をよくするための最上の道だということを理解するようになる。この道によってのみ各国人民は搾取、貧困、飢餓をのがれることができる。この根本的な社会問題を解決するにあたって、もっとも重要な役割を演ずる使命をもっているのは労働者階級と広範な農民大

衆である。

こんちの歴史的情勢では、多くの国で、独立した民族民主国家をつくるうえに有利な内外条件が生まれつつある。民族民主国家とは、徹底的に自国の政治・経済上の独立を守り、帝国主義とその軍事ブロック、自国領土内の軍事基地に反対してたたかう国家、新しい形の植民地主義と帝国主義的資本の侵入にたいしてたたかう国家、独裁専制政治のやり方をしりぞける国家、人民に広範な民主的権利と自由（言論、出版、集会、デモの自由、政党と社会団体をつくる自由）を確保し、農地改革を實行し、民主的・社会的改革の分野でその他の要求を達成する可能性、国の政策の決定に参加する可能性を人民に与える国家である。民族民主国家が形成され強化されることは、社会進歩の道にそって急速に発展し、平和擁護、帝国主義陣営の侵略的政策反対、植民地的抑圧の完全な一掃のための各国人民のたたかいに積極的に参加する可能性をこれらの国に保障する。

各国共産党は反帝・反封建・民主革命を徹底的に最後までおしすすめ、民族民主国家をつくり、人民大衆の生活水準を大幅に向上させるため、積極的にたたかっている。共産党はかちとられた成果を強固なものにし、帝国主義の地歩をきりくずすような民族政府の行動を支持している。同時に共産党は、反民主・反人民的な行為、民族独立をおびやかすような支配層の政策につよく反対している。共産主義者は、ブルジョアジーの反動分子が利己心にみちたブルジョアジーだけの狭い利益を全民族の利益といいくるめるたくらみを暴露し、これと同じ目的でブルジョア政治家が社会主義的スローガンをぎまんに利用していることを暴露し、社会生活の真の民主化をはかり、専制政權に反対してたたかい、またはこの政權樹立への傾向を阻止するため、すべての進歩勢力を結集して

いる。

共産主義者の目的は、民族の最高の利益と一致するものである。「反共」の旗印のもとに民族戦線をきりくずし、解放運動の最前衛である共産党を孤立させようとする反動勢力のくわだては、民族運動の力を弱め、各国人民の民族的利益にそむき、民族がすでにかちとった成果を台なしにするおそれがある。

社会主義諸国は、帝国主義のくびきと圧迫からの解放をすでにかちとり、あるいは解放のためにたたかっている諸民族の真の忠実な友である。社会主義諸国は新興の民族国家へのあらゆる内政干渉に原則的に反対して、民族独立の強化をめざす諸民族の闘争をたすけることをその国際的義務だと考えている。社会主義諸国は、新興の民族国家が進歩の道を進んで民族産業をつくり、自国経済を発展させ強化し、自国の人材を養成することを援助し支持し、そして全世界の平和をまもるたたかいと帝国主義侵略にたいするたたかいでこれらの国ぐにと協力している。

本国の自覚した労働者は、帝国主義に抑圧されている諸民族の自決のために、一貫してたたかってきた。かれらは「他民族を抑圧している民族は自由でありえない」ことを自覚しているからである。被圧迫民族が民族独立の道を歩みつつある現在、工業的に発達した資本主義諸国の労働者と全民主勢力の国際的義務は、これらの諸民族が帝国主義者に反対し、民族独立をかちとり、それをつよめるたたかいを全力をあげて支持し、かれらが経済的・文化的復興の諸課題を成功のうちに解決することをたすけることである。この義務を果たすことによって、かれらは自国の人民大衆の利益を守ることとなる。

植民地制度のすべての形態とあらわれを、完全にしかも最後のに一掃することは、この数十年間の世界史の発展全体が要求しているところである。また植民地主義のくさりにしばられていたすべての民族には、民族独立を勝ちとるうえで、ありとあらゆる支持が与えられなければならない。植民地抑圧のすべての形態は一掃されなければならない。植民地主義の一掃は国際緊張緩和と全般的な平和を確保するために、もっとも重要な意義をもつであろう。会議は、英雄的な反帝闘争をおこなっているアジア、アフリカ、ラテン・アメリカ、大洋州のすべての民族に連帯を表明する。会議は政治的独立をたたかいとつたアフリカの新興諸国の人民にあいさつを送る。政治的独立を勝ちとることは、その国の完全解放へ向かう重要な一歩前進である。会議は自由と民族独立をめざしてたたかう英雄的アルジェリア人民への熱烈な共鳴と支持を表明するとともに、アルジェリアにたいする侵略戦争の即時停止を要求する。会議は南アフリカ連邦の人種的迫害と圧制の非人道的制度、黒人「隔離」制度をはげしく非難し、自由と平等のためにたたかう南アフリカ諸民族を積極的に支持するよう国際的な民主世論にうったえる。会議は、キューバ、コンゴ、および解放をたたかいとつたあらゆる国の民族の主権に干渉しないことを要求する。

すべての社会主義国、国際労働運動・共産主義運動は、帝国主義的・植民地的抑圧を脱するため、にたかっている諸民族に、全面的な精神的・物質的援助をおこなうことを自分たちの義務と考えている。

## 五

世界の舞台における新しい力関係によって、平和、民族独立、民主主義、社会主義のためのたたかいという共産党と労働者党の直面している歴史的な課題の解決に、新しい可能性があらわれている。

各国の共産党は革命の展望と課題を自国の具体的な歴史的・社会的諸条件に応じて、また国際情勢を考慮にいれて決定する。共産党は、社会主義の勝利までじつと手をこまねいていることなしに、すでにいまの条件のもとで、労働者階級と人民大衆の利益を守り、生活条件を改善し、人民の民主的権利と自由を拡大するためにあらゆることをおこなおうとして、献身的なたたかいをすすめている。人民を資本のくびきから解放する闘争がおもに自分の肩にかかっていることを認識している労働者階級とその革命的前衛は、さらにいっそう精力的に各国の政治、経済、イデオロギーのすべての面で抑圧者と搾取者の支配にたいして攻撃をおこなうだろう。このたたかひのなかで、資本主義の打倒、社会主義革命の勝利をめざす決戦のために、大衆の準備がととのえられ、条件がつくられるのである。

こんにちの条件のもとで、主要な打撃は、軍拡競争のおもな責任者であり、反動と侵略の支柱である資本主義独占体にたいして、またかれらの利益を守っている国家独占資本主義制度全体にたいして、ますます決定的にむけられている。

アメリカ帝国主義の政治的・経済的・軍事的支配下にあるヨーロッパ以外の発達した個々の資本



主義諸国では、労働者階級と人民大衆の主要な打撃は、アメリカ帝国主義の支配ならびに民族の利益を売り渡している独占資本とその他の国内反動勢力にたいしてむけられている。このたたかいのなかで、真の民族独立と民主主義の達成をめざす革命の勝利のためにたかっている民族のすべての民主的・愛国的勢力は、統一戦線に結集しつつある。真の民族独立と民主主義を獲得することは社会主義革命の任務の解決に移行する条件をつくりだすのである。

大独占体は労働者階級と広範な人民大衆の利益に全面的な攻撃をおこなっている。勤労者の搾取がつまり、広範な農民大衆の零落の過程が進行し、これと同時に都市の中小ブルジョア階級の困難が増大している。大独占体による圧迫は民族の各階層にますます重くのしかかっている。その結果、現段階においてはブルジョア社会の基本的階級的矛盾である労資間の矛盾の激化とともに、ひとにぎりの独占資本家と人民全階層との矛盾もはげしくなりつつある。

独占体は人民大衆の民主的権利をまったく奪うか、あるいはそれをぎりぎりまできりつめようとしている。一部の国では公然たるファッショのテロが依然として荒れくるっている。一連の国ではファッショ化が新しい形でつよまっている。すなわち、民主的内容が奪いとられ単なる形式にされてしまったニセ議会制度と独裁的な統治方法とが、結びつけられているのである。多くの民主団体は非合法化されて、地下活動にうつらなければならなくなっているし、労働者階級の事業と平和のためにたたかっていたいく千人という闘士が投獄されている。

会議は、全世界の共産主義者の名において、アメリカ合衆国、スペイン、ポルトガル、日本、西ドイツ、ギリシャ、イラン、パキスタン、アラブ連合共和国、ヨルダン、イラク、アルゼンチン、

パラグアイ、ドミニカ共和国、メキシコ、南アフリカ連邦、スーダンその他の国で獄中に苦しんでいる労働者階級のすぐれた男女の闘士および民主主義者にプロレタリア的連帯の気持を表明するものである。この会議は平和、民族独立、民主主義の闘士を釈放するために強大な国際運動をひろげることによびかける。

労働者階級、農民、インテリゲンチア、都市の中小ブルジョア階級は独占体の支配をなくすことに切実な関心をもっている。これらすべての勢力を団結させるために有利な条件が生まれている。共産主義者は、つぎのような基礎のうえにこのような統一が十分に実現できると考えている。その基礎とは平和と民族独立のたたかい、民主主義の擁護と発展、経済のもっとも重要な部門の国有化とその管理の民主化、人民の要求を満足させるために全経済を平和目的に利用すること、おもいきった農地改革の実行、勤労者の生活条件の改善、農民と都市の中小ブルジョア階級の利益を独占体の横暴から守るためのたたかいである。

このような措置が実現されるならば、それは社会進歩の途上における重要な一歩前進であり、民族の大多数の利益にそうこととなる。これらの措置はすべて民主的な性質をもっている。それらはまだ人による人の搾取を根絶するものではない。しかしこれらの措置を実現すれば、独占体の力を制限し、国内で労働者階級の権威と政治的比重を高め、もっとも反動的な勢力をいっそう孤立させ、進歩的全勢力の統一を容易にするであろう。民主的改革への広範な住民各層の参加は、労働者階級との統一行動の必要なことをかれらに自覚させ、その政治的積極性を高めることをたすける。労働者階級とその共産主義的前衛のもっとも重要な義務は、民主的改革と独占体の支配の打倒をめ

さす大衆の経済的・政治的闘争の先頭に立ち、このたたかいを成功させることである。

共産党員は経済的・社会的生活やいっさいの行政、政治、文化の組織と諸機構の全般的民主化を主張している。

共産党員は民主主義のためのたたかいを社会主義のための闘争の構成部分であるとみなしている。このたたかいを通じて共産党員はつねに大衆との結びつきをつよめ、大衆の政治的意識を高め、社会主義革命の課題を説明し、この革命をおこなうことが必要であることをかれらに理解させる。この点にマルクス・レーニン主義の党と改良主義者との根本的なちがいがあつた。改良主義者は、資本主義制度のわく内での改良を終局的な目的と考え、社会主義革命の必要を認めない。資本主義諸国の人民は、その日常のたたかいを通じて、ただ社会主義だけがかれらにとって真の活路であるということを理解するようになる、とマルクス・レーニン主義者は信じて疑わない。

任民の新たな層がつぎつぎと積極的な階級闘争に合流してきている現在、共産党員が労働組合、協同組合、農民、青年、婦人、スポーツ団体、未組織の人びとの間での活動をつよめることはきわめて大きな意義をもっている。現在では若い世代を平和と民主主義のためのたたかい、共産主義の偉大な理想をめざすたたかいへ引き入れるうえで、新しい可能性があらわれている。大衆のなかへ深くはいり、大衆のいるところではどこでも活動し、大衆との結びつきをつよめ、そして大衆を指導していくというレーニンの偉大な教えを、各国共産党はもっとも重要な任務としなければならない。

政治生活における労働者階級の比重を高めるためにも、労働者階級の利益を成功裏に守るために

も第一義的な意義をもつものは、労働組合運動が分裂している国でも、また国際的にも、労働組合運動の統一をとりもどすことである。労働者は、ちがった労働組合にはいっても、共通の利害をもっている。この数年来の大きな階級闘争において、ちがった労働組合組織が協力してたたかうたびに、まさにその統一のおかげで、いつも労働者の要求は貫徹されている。共産党は労働組合の統一を復活する現実的な前提条件があると考え、その実現のためにねばりつよくたたかうだろう。労働組合の民主主義が現実存在しない諸国では、労働組合の統一のための闘争は労働組合運動の自主性を達成し、政治的差別やその他いかなる差別もなしに全労働者の労働組合権を認めさせ尊重させるためのたゆみない活動を要求している。

平和と社会進歩のためには、一国および国際的な規模において、その他のすべての大衆的民主主義運動を再統一することも要求されている。大衆団体の統一は平和擁護、民族独立、民主的権利の維持と拡大、生活条件の改善、労働者の社会的権利の拡大をめざす闘争で統一行動をとることによつてなしとげられるものである。

資本主義諸国の人民大衆がその課題を達成するたたかいで決定的な役割を果たすのは、労働者階級と働く農民との同盟であつて、これは社会革命のおもな推進力である。

労働者階級が目的を達成するのをはばんでいるおもな障害は、労働者階級の隊列が依然として分裂していることである。この分裂状態を国内的にも国際的にもつづけることに利益を感じているのは、支配階級と社会民主主義政党の右翼幹部と労働組合の反動的指導者である。共産主義者はこの分裂を克服するために断固としてたたかっている。

各国の帝国主義者と反動勢力は、労働者階級の団結を分裂させ破壊するために、弾圧手段とならんで、ぎまんと買収の手を使っている。近年における諸事件は、この分裂が労働者階級の陣地を破壊するものであり、帝国主義反動だけにつごうがよいものであるということをかきねて示している。

一部の右翼社会民主主義指導者は、おおびらに帝国主義の立場にうつり、資本主義制度を擁護し、労働者階級を分裂させている。かれらは、共産主義に敵意をいだき、世界の舞台で高まっている社会主義の影響をおそれ、反動的・保守的勢力に屈服している。いくつかの国では右翼幹部はマルクス主義と階級闘争、伝統的な社会主義のスローガンを公然と否定した綱領を社会民主主義政党に採択させることに成功した。こうして、かれらはまたブルジョアジーに忠勤をつくしたわけである。社会民主主義政党内ではこの右翼幹部の政策にたいする抵抗が高まっている。こうした反幹部の機運は社会民主主義政党の一部の役員の間にもおきている。平和、民主主義、社会進歩のたにかいで、労働者階級と他の労働者の統一行動を支持する勢力が増大している。社会民主主義政党内の圧倒的多数、とくに労働者は平和と社会進歩の支持者である。

共産主義者は、社会民主主義の思想的立場と右翼日和見主義的实践を今後も批判しつづけるであろう。また、社会民主主義政党の党員大衆に働きかけて、資本主義に反対し、社会主義の勝利をめざす一貫した階級闘争の立場へ引き入れていくために活動をつづけていくであろう。共産主義者と社会民主主義者の間の思想上の相違によって、機熟した労働運動の諸問題についての意見の交換や共同闘争、とくに戦争の危険にたいする共同闘争が妨げられてはならないと、共産主義者はかた

く信じている。

共産主義者は、勤労者である社会民主主義者を、階級としては自分の兄弟と考えている。共産主義者はしばしばかれらとともに労働組合その他の団体で活動し、労働者階級と全人民の利益のための共同闘争をおこなっている。

労働運動の根本的な利益が強く要求していることは、つぎの諸課題達成のため、共産党と社会民主主義政党が一国内でも国際的にも共同の行動をとることである。その課題とは核兵器の製造、実験、使用を即時禁止すること、核非武装地帯をつくること、国際管理をともなう全般的かつ完全な軍縮、他国の領土にある外国の軍事基地をとりはらい、外国軍隊を引きあげさせること、植民地と従属国の人民の民族解放運動を援助すること、民族主権を確保すること、民主主義を強化してファシストの危険に反撃を加えること、勤労者の生活水準を向上させること、賃金を下げずに週労働時間を短縮すること、などである。幾百万の社会民主主義者と一部の社会民主主義政党は、あれこれの形ですでにこの諸課題を解決することに賛意をあらわしている。多くの資本主義国の労働者階級が、もし内部の分裂をとりのぞき、そのすべての隊列の行動統一を達成するならば、資本主義諸国の支配層がおこなう政策に痛撃を与え、かれらの新戦争準備をやめさせることができるだろうし、独占資本の攻撃をはねかえして、生活と民主主義の切実な要求を貫徹することができる。このことは、はっきり断言できる。

各国の共産党は、勤労者の生活条件の改善、かれらの民主的権利の拡大と維持、民族独立の獲得と擁護、諸民族間の平和をめざすたにかいでも、権力の獲得と社会主義の建設をめざすたにかいで

も、社会民主政党との協力をおこなうことを主張している。共産主義者は科学的な裏づけのある実践に確証された首尾一貫した偉大なマルクス・レーニン主義の学説をもち、社会主義建設の豊かな国際的経験をもっている。共産主義者は社会民主主義者と討論する用意があるが、それは、これこそ、見解や主張と経験を比較検討して、いままでに深く根をおろした偏見をとりのぞき、勤労者の分裂をなくし、協力をおこなうための最良の道であると信じるからである。

帝国主義反動は、共産主義運動とそのイデオロギーに疑いをいだかせようとして、共産主義者には資本主義制度をくつがえして社会主義制度をうちたてるために国家間の戦争が必要であるかのようには断定して、大衆をおどかしつづけている。共産党はこの中傷を断固として拒否する。帝国主義者のひきおこした二つの世界戦争は社会主義革命で終わりをつけたが、これは、社会革命はかならず世界戦争がなければできないということにはならない。まして強大な社会主義世界体制の存在する現在においてはそうである。マルクス・レーニン主義者は、国家間の戦争がなければ社会革命ができないとはけつして考えたことはない。

いずれの社会制度をえらぶかは、だれも奪うことのできない各国人民の権利である。社会主義革命は輸入されるものではなく、外からおしつけられるものでもない。それは、各国の内部的発展の結果、その国における社会的矛盾の極度の先鋭化の結果おきるものである。マルクス・レーニン主義の学説に導かれる共産党は、いつも革命の輸出に反対してきた。と同時に、共産党は帝国主義者が反革命を輸出することに反対して断固たたかっている。共産党は、全世界の人民が団結をかため、その国内のすべての勢力を動員し、積極的に行動し、社会主義世界体制の力にたよりながら、

革命に立上ったいたかなる人民の内政にたいする帝国主義の干渉をも防止するか、あるいはこれにたいして断固たる反撃を加えるように全世界の人民によびかけることを、自己の国際的義務とみなしている。

各国のマルクス・レーニン主義党は、社会主義革命を実現し、あれこれの形でプロレタリアートの独裁をうちたてるためにたたかう労働者階級、勤労大衆の闘争の先頭に立っている。社会主義革命の形態と発展の方向は、それぞれの国の階級勢力の具体的な力関係、労働者階級とその前衛の組織性と成熟の程度、支配階級の抵抗の度合いに左右される。プロレタリアート独裁は、それがどんな形で樹立されようとも、つねに民主主義の拡大、形式的なブルジョア的民主主義から真の民主主義、すなわち勤労者のための民主主義への移行を意味するだろう。

各国共産党はちがつた国における資本主義から社会主義への移行形態の問題にかんする一九五七年の「宣言」の命題を確認する。「宣言」は次のようにのべている。

労働者階級とその前衛であるマルクス・レーニン主義党は、平和な方法で社会主義革命をやりとげようとしている。この可能性を実現することは、労働者階級と全人民の利益に、民族全体の利益に合致する。

現在の条件のもとでは、一連の資本主義諸国で前衛部隊にみちびかれる労働者階級は、労働者の統一戦線および人民戦線、その他のあらゆる形態のいろいろの政党や社会団体の協定や政治的協力にもとづいて、人民の大多数を統一し、内戦なしに国家権力をにぎり、基本的な生産手段を人民の手にうつすことのできる可能性をもっている。人民の大多数をよりどころにし、資本家や

地主との妥協政策をすることのできない日和見主義分子に断固たる反撃を加えることによつて、労働者階級は、反動的反人民的勢力を敗北させ、議会で安定した過半数を勝ちとり、ブルジョア階級の階級的利益に奉仕する道具である議會を、勤労人民に奉仕する道具にかえ、議會外のひろい大衆闘争をくりひろげ、反動勢力の抵抗を粉碎して、社会主義革命を平和のうちに実現するために必要な条件をつくりだす可能性をもっている。だが、これはすべて、大独占資本に反対し、反動勢力に反対し、深刻な社会改革をめざし、平和と社会主義をめざす、労働者、農民大衆、都市中間層の階級闘争の、ひろい、たゆみない発展によつてこそ可能になるものである。

搾取階級が人民にたいして暴力にうたててくる場合には、べつの可能性、すなわち、社会主義への非平和的移行の可能性をも考えにいれなければならない。レーニン主義が教えているように、また歴史の経験が証明しているように、支配階級は、みずからすすんで権力をゆすりわたすものではない。このような条件のもとでは、階級闘争のはげしさの程度とその形態は、プロレタリアートにかかっているのではなくて、むしろ人民の圧倒的多数の意思にたいする反動勢力の抵抗、社会主義をめざすただかいたのあれこれの段階で反動勢力が暴力をつかうかどうかにかかるとのである。

それぞれの国で、社会主義へ移行するどちらの方法が現実には可能であるかは、具体的な歴史的條件によつてきまる。

共産主義がたんにもつとも進歩した学説であるというにとどまらず、資本主義にたいして優越を証明した現実存在する社会制度になってきた現在では、各国共産党の影響力を広め、資本家階級

がプロレタリアートとの闘争で口実として利用している反共主義を断固として暴露し、共産主義思想の側に広範な勤労大衆をひきつけるのに、とくに有利な条件が生まれつつある。

反共主義は資本家階級がプロレタリアートおよびマルクス主義イデオロギーとのたたかいで使用したおもな思想上の武器であつて、労働運動が発展したばかりの時代に発生したものである。階級闘争がはげしくなるにつれ、とくに社会主義世界体制が樹立されるとともに、反共主義は前よりも悪らつなものになり、手のこんだものとなった。ブルジョア・イデオロギーの深刻な思想的危機と極度の退廃を反映する反共主義は、マルクス・レーニン主義の学説をおどろくほどゆがめ、社会主義的社会制度を口ぎたなく中傷し、共産主義者の政策と目的をねじまげ、民主的な平和を愛する勢力と団体を迫害している。

労働者の利益を成功裏に守りぬき、平和を維持し、労働者階級の社会主義的理想を実現するためには、ブルジョア階級が大衆を社会主義からきりはなすために使っている毒入りの武器である反共主義と断固としてたたかわなければならない。社会主義の思想をもつと広く人民大衆に説明し、勤労者を革命的精神で教育し、かれらの階級的・革命的意識を高めるとともに社会主義世界体制の実例にもとづいて、すべての勤労者に社会主義社会の優越性を示し、社会主義が各国の労働者、農民、その他の人民層にどのような利益をもたらすかを具体的に示さなければならない。

共産主義が人びとに保障するものは、戦争の恐怖からの解放、永続的な平和、帝国主義的抑圧と搾取と失業と貧困からの解放、全人民の生活の保障と高い生活水準、経済恐慌の不安からの解放、社会全体の利益を目的とする生産力の急速な向上、金力の圧迫からの人間の解放、人間の全面的な

精神的発展、すべての才能を発揮する可能性、社会の科学と文化の無限の進歩である。新しい社会制度が勝利すれば、ひとにぎりの搾取者をのぞいてすべての住民層が得をするのである。そして、このことを資本主義諸国の幾千万という人びとによくわかるように説明しなければならない。

## 六

世界共産主義運動は、われわれの時代のもっとも影響力の強い政治的勢力になり、社会進歩のもっとも大切な要因となっている。共産主義運動は労働者階級とすべての勤労者の利益をまもり、平和、民族独立、民主主義、社会主義を勝ちとるために、帝国主義反動勢力とはげしいたたかいをおこないながら、たえず前へ前へと進み、団結をかため、きたえられていく。

現在では八十七カ国で共産党が活動している。これらの共産党には三千六百万をこえる党員がはいっている。これは、マルクス・レーニン主義のめざましい勝利であり、労働者階級の偉大な成果である。植民地のくびきを脱して自主的發展の道にふみ出した諸国ではマルクス主義者として志を同じくする人びとの結集がつづいている。各国共産党は、帝国主義に反対する共同闘争を通じて自国の労働者階級と解放された諸国の労働運動との友好と連帯の強化を促進することを国際的義務とみなしている。

各国共産党の党員はふえ、その組織は強化され、一連の国の共産党は諸偏向とのたたかいで勝利し、個人崇拜の有害な結果がとりのぞかれ、国際共産主義運動の影響力がつよまっているため、各国共産党が当面している課題を成功裏に解決する新しい見とおしが開かれている。

マルクス・レーニン主義党は、民主主義的中央集権制の原則にもとづく党生活のレーニンの基準をきびしく守り、党の統一をひとみのように守り、党内民主主義と集団指導の原則を厳守し、レーニン主義の組織原則にしたがって党生活における党指導機関の役割を重視し、その指導機関と党員および広範な勤労大衆との結びつきをたえず強め、党員の創造的思想と創意の發展を拘束する個人崇拜を許さず、党員の積極性をあらゆる方法で高め、自己の隊列内で批判と自己批判をさかんにすることを、その活動の不変の法則とみなしている。

各国共産党はこれらの党をマルクス・レーニン主義の道からそらそうとした党内の修正主義者を思想的に粉砕した。個々の共産党と国際共産主義運動全体は、修正主義、右翼日和見主義との闘争を通じて思想的にも組織的にもいっそうつよくなった。

各国共産党は、現代修正主義者の「理論」の集中的なあらわれであり、国際的日和見主義の一変種であるユーゴスラビアの日和見主義を一致して非難した。マルクス・レーニン主義を裏切り、それを時代おくれのものといっているユーゴスラビア共産主義者同盟の幹部たちは、一九五七年の「宣言」に反レーニンの修正主義的綱領をもって対抗した。かれらは、ユーゴスラビア共産主義者同盟を国際共産主義運動全体に対抗させ、自国を社会主義陣営から切り離してアメリカその他の帝国主義者のいわゆる「援助」に依存させ、それによってユーゴスラビア人民の英雄的な闘争でえられた革命的成果を失う危険をつくり出した。ユーゴスラビアの修正主義者は、社会主義陣営と国際共産主義運動にたいして破壊工作をおこなっている。かれらはブロック不参加政策という口実にかくれて、すべての平和を愛する勢力と諸国家の団結を破る活動をくりひろげている。ユーゴスラ

ピア修正主義者の指導者を今後とも暴露し、共産主義運動と労働運動をユーゴスラビア修正主義者の反レーニン主義的思想から守るために積極的になたかうことは、依然としてマルクス・レーニン主義者の欠くことのできない課題である。

労働者階級のたたかひの実践および社会発展の全過程は、マルクス・レーニン主義が偉大な不敗の力であり、不滅のものであることを、かさねてかつ見事に実証し、現代修正主義者のいっさいの「理論」をあますところなくつがえした。

共産主義運動・労働運動をさらに発展させるためには、一九五七年のモスクワ宣言に指摘されているように、二つの戦線で、すなわち依然として主要な危険である修正主義にたいして、また教条主義とセクト主義にたいして、徹底的なたたかひをつづけていかなければならない。

修正主義すなわち右翼日和見主義は理論面でも実践面でもブルジョア・イデオロギーを反映するものであり、マルクス・レーニン主義をゆがめ、マルクス・レーニン主義の革命的内容を骨抜きにするとともに、労働者階級の革命的決意をまひさせ、帝国主義者と搾取者の抑圧に反対して平和、民主主義、民族解放および社会主義の勝利のためにたたかっている労働者、勤労大衆を武装解除し、動員解除してしまうものである。

教条主義とセクト主義は理論面でも実践面でも、もしそれと徹底的にたたかわなければ、個々の党のある発展段階ではやはり主要な危険になることがありうる。教条主義とセクト主義は、科学的分析にもとづいてマルクス・レーニン主義を発展させ、それを具体的条件に応じて創造的に適用する力を革命的諸党から奪い、共産主義者を広範な勤労者層から孤立させ、かれらを革命闘争で、静

観主義か、極左的・冒険的行為に走らせ、情勢の変化と新しい経験に適時に正しく評価することを妨げ、帝国主義、反動勢力、戦争の危険とたたかう労働者階級および全民主勢力の勝利のためにいっさいの可能性を利用することを妨げ、それによって、各国人民がおこなっている正義のたたかひで勝利をおさめるのを妨げる。

帝国主義反動が勢力を結集して共産主義との闘争をおこなっている状況のもとでは、全力をつくして世界共産主義運動を團結させることがとくに必要である。統一と團結は、われわれの運動の力を何倍にもし、共産主義の大業を破竹の勢いで前進させ、敵のあらゆる攻撃を成功裏に撃退するための頼もしい保証をつくりだす。

全世界の共産主義者は、マルクス・レーニン主義の偉大な教えとその実現をめざす共同闘争で結ばれている。共産主義運動の利益は兄弟諸党の会議で共同でつくりあげた反帝、平和、民主主義、社会主義のための闘争の共通の課題にかんする評価と結論を各国共産党が連帯してまもることを要求している。

労働者階級の事業の勝利をめざしてたたかうためには、それぞれの共産党の隊列と、万国の共産主義者の大部隊の統一をますます強く團結させ、その意志と行動を統一しなければならない。国際共産主義運動の統一を不断に強化することに心を使うことは、それぞれのマルクス・レーニン主義の最高の国際的義務である。

マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の諸原則にもとづいて国際共産主義運動の統一を堅く守ること、この統一をみだすおそれのあるいかなる活動もゆるさないことは、民族独立、民

主義、平和のためのたたかい、社会主義革命、社会主義建設と共産主義建設の諸任務を成功裏に解決するためのたたかいで勝利をおさめるうえに欠くことのできない条件である。この原則をおかすことは共産主義の勢力を弱めることになる。

すべてのマルクス・レーニン主義党は、独立した平等な党であり、各国の具体的情勢に応じ、マルクス・レーニン主義の諸原則にしたがってそれぞれの政策をたてており、しかもたがい支持しあっている。それぞれの国の労働者階級の事業を成功させるためには、すべてのマルクス・レーニン主義党の国際的連帯が必要である。それぞれの党は自国の労働者階級と勤労者にたいして、国際的な労働運動、共産主義運動全体にたいして責任をもっている。

各国の共産党と労働者党は必要に応じて会議を開き、緊急な諸問題を討議し、経験を交換し、互いの見解と立場をのべあい、相談によって見解を統一し、共通の目的をめざすたたかいにおける共同行動を協定していく。

もしいずれかの党に他の兄弟党の活動にかんする問題が生じた場合には、その党の指導部は相手の党の指導部に話をもちかける。もし必要があれば会議を開き相談をおこなう。

この数年間におこなわれた各国共産党代表の会合の経験と成果、とくに一九五七年十一月と今回の二つの大きな会議の成果がしめしているように、いまの条件のもとでは、このような会議は、意見と経験をたがいに交換し、集団の努力でマルクス・レーニン主義理論をいっそう豊かにし、共通の目的をめざすたたかいにおける統一された立場をつくりあげるうえで、効果的な形態である。

各国共産党・労働者党は、国際共産主義運動のもっとも経験の豊かなきたえあげられた部隊であ

るソ連邦共産党が、世界共産主義運動の一般に認められた前衛であったし、今後もひきつづきそうであることを一致して声明する。ソ連邦共産党が労働者階級の勝利をめざすたたかいと社会主義の建設および共産主義の全面的建設を通じてたくわえてきた経験は、国際共産主義運動全体にとって原則的な意義をもっている。ソ連邦共産党の模範とその兄弟的連帯は、平和と社会主義のためにたたかっているすべての共産党を激励し、プロレタリア国際主義の革命の原則をいかに実践に適用するかを示している。ソ連邦共産党第二十回大会の歴史的決定は、ソ連邦共産党とソ連の共産主義建設にとって大きな意義をもつだけではなく、国際共産主義運動における新しい段階の端緒となり、マルクス・レーニン主義を基礎とするこの運動の一層の発展をたすけるものであった。

各国の共産党と労働者党はマルクス・レーニン主義の偉大な学説の発展にそれぞれ貢献している。すべての兄弟的マルクス・レーニン主義党の間の相互援助と相互支持はプロレタリア国際主義の革命の原則を具体的に適用した実例である。

こんにちの状態でイデオロギーの問題は特別の意義をもっている。搾取階級は社会主義の成功に對抗していよいよ活発に大衆にたいする思想工作をおこない、大衆をブルジョア・イデオロギーの精神的とりこにしておこうとつとめている。共産主義者は、イデオロギー戦線で決然たる攻勢をくりひろげ、有害な改良主義の影響をふくめてあらゆる種類と形態のブルジョア・イデオロギーによる精神的奴隸化から人民大衆を救いだし、社会進歩を保障する先進的思想、自由を愛する民主主義的思想、つまり科学的社会主義のイデオロギーを大衆の間に広めることをその任務と考えている。

人間の意識にしみこんでいる資本主義の残りかすが、社会主義制度がうちたてられたのちも長い



間維持されるということは、歴史の経験が示しているとおりである。したがって、大衆を共産主義的に教育し、党と国家の人材をマルクス・レーニン主義理論でさらにきたえあげるために、あらゆる面にわたる大規模な活動をくりひろげることが必要なわけである。

マルクス・レーニン主義は、統一された偉大な革命的学説であり、平和、自由、よりよい生活、もっとも公平な社会、すなわち共産主義の樹立をめざす世界中の労働者階級と全勤労者の偉大なたたかいのあらゆる段階におけるかれらの導きの星である。マルクス・レーニン主義の偉大な創造的変革の力は、実生活とのきつてもきれないつながりのなかにあり、現実をあらゆる面から分析することによって、みずからをつねに豊かにしていくことのなかにある。社会主義諸国の共同体、国際共産主義運動、労働運動、解放運動の偉大な歴史的勝利はマルクス・レーニン主義にもとづいて達成されたものであり、マルクス・レーニン主義によってのみ、共産党と労働者党の直面しているすべての任務を成功のうちに解決することができる。

会議参加者は、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義にもとづく各国共産党のいっそうの団結こそ、労働者階級の全勢力、民主主義と進歩の全勢力を結集するもっとも重要な条件であり、全人類のかがやかしい未来をかちとり、平和と社会主義の事業の勝利をかちとる大闘争で世界の共産主義運動と労働運動が新たな勝利をおさめるための保障だと考えている。

## 世界各国人民へのよびかけ

十月社会主義大革命四十三周年にあたって、モスクワに集まった世界の五つの大陸の共産党と労働者党の代表であるわたしたちは、人類の運命にたいする責任を痛感しつつ、新しい世界戦争の脅威に反対し平和を守る全般的なたたかいについてみなさんに訴えます。

いまから三年前、共産党・労働者党は全世界の人民にたいして「平和のよびかけ」をしました。このとき以来、平和勢力は戦争挑発者との闘争で輝かしい勝利をおさめました。

そして、こんにち、わたしたちは、平和の事業の勝利にたいするいっそうかたい確信をもって、幾百幾千万の男女や子どもをおびやかしている戦争の危険とたたかうことができます。平和に、自由に暮らしたいという各国人民のいく世代にもわたる願いを実現する見込みがこれほどまで現実的なものになったことは、人類の歴史にこれまでありませんでした。

巨大な犠牲をとめない、何億という人びとを殺し、世界文明のおもな中心地を廢墟にしようとする破局的な戦争の脅威を目の前にして、平和を維持する問題はいままでのいつにもまして全人類の心をいためています。

わたしたち共産主義者は、平和と全般的な安全と、すべての個人と国民が平和に自由に暮らせるような条件をかちとるためにたたかっています。

ひとつひとつの社会主義国および社会主義共同体全体の目的は、すべての人民のために永続的な平和を確保することであります。

社会主義は戦争を必要としません。古い制度と新しい制度、社会主義と資本主義の歴史的闘争は、世界戦争によってではなくて平和な競争によって、すなわちどちらの社会制度が経済や文化の面で高い水準を達成し、もっともよい生活条件を人民大衆に保障するかという平和な競争によって解決しなければなりません。

わたしたち共産主義者は、近代戦の惨禍から人類を救うために全力をつくすことを、自分たちの神聖な義務と考えています。

すべての社会主義国は、偉大なレーニンの教えにしたがって、社会制度のちがう国家との平和共存という原則を対外政策の基調にしています。

現代においてどの国の人民も、どの国家も、社会主義と資本主義の平和共存と平和競争か、それとも殺人的な核戦争か、どちらかひとつをえらぶしかありません。ほかの道はありません。

全世界の平和にたいする脅威はいったいどこから起きてくるのでしょうか。すべての政府は平和を口にしていますが、問題は言葉ではなく実行です。

戦争を準備し、それを開始するのは、過去におけると同様に現在においても、帝国主義諸国の反動的・独占的・軍事的な集団であります。平和をおびやかしているのは帝国主義的な大国の政府の政策であります。これらの政府は、自国の人民の意志に反して、いろいろな国に破滅的軍備拡張競争をおしつけ、社会主義国家や他の平和愛好国家にたいする「冷たい戦争」をあおりたて、諸民族の自由を愛する意思をおさえつけているのです。

事実は、これを物語っています!!

各国の人民は管理された全般的かつ完全な軍縮についての提案を歓迎しました。これは、ソ連が提案し、すべての社会主義国が熱烈に支持したものであります。この提案の実現にさからっているのはただでしょうか? アメリカ合衆国をはじめとする帝国主義国の政府です。これらの政府は、管理された軍縮ではなくて、軍備の管理を提案しています。軍縮交渉をたんなるおしゃべりにかえてしまおうとしているのです。

各国人民は三大国がもう二年も核兵器の実験をやめているのを喜んでいます。さらに一歩すすめて、この殺人的な実験の最後の禁止についての決定を採択するのにさからっているのは、いったいだれでしょうか? それは帝国主義諸国の政府であります。これらの政府は原子兵器の実験を再開したいとめどもなく公言し、各国人民の圧力のもとにしぶしぶはじめた実験禁止交渉をつねに決裂の危機にさらしているのであります。

各国人民は自国の領土内に外国の軍事基地をのこしておくことをのぞんでいません。各国人民は自分たちの国の独立を制限し、自国を危険な状態におく、侵略的軍事協定に反対しています。

これにさからっているのはだれでしょうか?

それは大西洋ブロックにはいつている諸国の政府です。これらの政府は西ドイツの軍国主義者と報復主義者に、他国の領土内にある軍事基地を提供し、かれらの手に大量殺人兵器をあたえ、NATOの軍隊の原子武装を強化しているのです。

日本、パキスタン、その他の中近東の諸国に侵略的軍事協定をおしつけ、平和愛好諸国にむかつてこれらの諸国をそそのかし、南朝鮮を占領してそれを自分の軍事的足場にし、日本の軍国主義を

復活し、ラオスと南ベトナムの内政に干渉し、オランダ帝国主義者を西イリアンで、ベルギー帝国主義者をコンゴで、ポルトガル帝国主義者をゴアで支持し、またその他の植民地主義者を支援し、キューバ革命にたいする武力干渉を準備し、ラテンアメリカ諸国を軍事協定に引入れているのは、ほかならぬアメリカ合衆国の支配者集団です。

中国の台湾を占領し、中華人民共和国の領空にたえず軍用機を飛ばし、同時にこの国が国際連合に代表をおくる当然の権利をふみにじっているのは、ほかならぬアメリカ合衆国です。

いつでも発射できるロケット装置、核兵器でいっぱい倉庫、水爆を積んでしよう（哨）戒する飛行機、攻撃準備をととのえて大洋を航行する軍艦と潜水艦、他国の領土に設置された軍事基地網——これがいまの帝国主義のやり方です。このような状況のもとでは、地球上どのような国も、大小を問わず不意に核戦争のほのおにのみこまれるかも知れないのです。

帝国主義はひとにぎりの大独占資本と植民地主義者の利己的な利益のために世界を戦争の瀬戸ぎわにおしやっているのです。

平和の敵は、ありもしない「共産主義の侵略」というでたらめなうそをまきちらしています。こうしたりそがかれらに必要なのは、自分たちの真のねらいをおおいかくし、各国人民の意志をまひさせ、各国人民にたいし軍拡競争を正当なものとおもわせるためなのです。

労働者、農民、知識人のみなさん！

世界中の善意のみなさん！

こんにち、人類にとって、ロケット・核戦争の脅威に反対し全般的かつ完全な軍縮と平和の維持を要求するたたいほど、一刻もゆるがせにできない課題はありません。今日では、このたたい

に参加することほど崇高な義務はありません。

世界に永続的な平和をうちたてることはできるでしょうか？

これにたいしてわたしたち共産主義者はつぎのように答えます。

戦争はさけられないものではありません。戦争を防止することはできます。平和をまもりかためることはできます。

わたしたちのこの確信は、たんにわたしたちの平和への意志と戦争挑発者へのにくしみからたものではありません。戦争を防ぐ可能性は、世界の新しい情勢の現実的な事実から生まれているのです。

こんにちの時代のますます決定的な要因になりつつあるのは、社会主義の世界体制です。人類の三分の一以上を包括する社会主義体制とその主力であるソ連は、帝国主義の行動を抑制し戦争冒険の支持者たちの手をしばりつけるために、不断にたかまっている経済力と科学・技術力を利用しています。

国際労働運動は、平和擁護闘争の旗を高くかかげて各国人民の警戒心を高め、帝国主義者の侵略政策に反対する積極的な行動へと世界のすべての誠実なひとびとをばげましています。

自由と政治的独立をたたかいとったアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの幾億という人民、および民族の自由をかちとるためにたたかっている人民は、ますます積極的に平和擁護の闘士になり、当然のこととして社会主義諸国の平和政策の同盟者になっています。

帝国主義者の侵略政策に同意しない中立諸国は、平和と平和共存を支持します。

全世界の平和擁護運動はいまや幾百幾千万という人びとを結集しています。この運動の参加者は、

それぞれの国で自分たちの祖国を新しい戦火から守ろうとしています。

これらすべての平和愛好勢力が団結して、決然たる闘争にのりだすならば、犯罪的な戦争計画をうちやぶり、平和を維持し、各国人民の友好を固めることができます。

平和はひとりだけでやってくるものではありません。平和はすべての平和愛好勢力の共同闘争によってのみ守ることができ、かためることができます。

わたしたち共産主義者は、すべての勤労者にたいし、すべての大陸の人民にたいし、つぎのように訴えます。

「冷たい戦争」と軍備拡張競争に反対し、国際緊張の緩和と平和共存のためにたたかきましょう！  
軍備に浪費されているはく大な費用をもし平和目的に使うならば、人民大衆の生活を改善し、失業者をへらし、賃金をふやし生活水準を高め、住宅建設をふやし、社会保険をさらに拡大することができます。

原子武装の拡張に反対し、ドイツと日本の軍国主義に大量殺人兵器をもたらないようにしましょう！

二つのドイツ国家とひとつの平和条約を結び、西ベルリンを非軍事化された自由都市にするよう要求しましょう！

新しい国ぐにを「冷たい戦争」と戦争準備の軌道に引入れようとする帝国主義諸国の政府のたくらみに反対してたたかきましょう！

他国の領土にある外国軍事基地の撤廃と外国軍隊の撤退、および新しい軍事基地の設置禁止を要求しましょう！ 各国の人民におしつけられた侵略的な軍事条約からみなさんの国を解放するため

にたたかきましょう！ 核非武装地域をもうける問題で協定を結ばせるために努力しましょう！

アメリカ独占資本の経済封鎖あるいは武力干渉によって英雄的なキューバ人民の自由が圧殺されるのを許さないようにしましょう！

労働者階級と人民の事業のためにたたかっているわたしたち共産主義者は、社会民主主義者、平和のためにたたかっているその他の政党员、団体に、すべての労働組合員、すべての愛国者に手をさしをめます！ 平和擁護と軍縮のために、わたしたちといっしょに行動しましょう！ 一致して行動しましょう！

帝国主義者の新しい戦争準備をうちやぶるための共同の戦線をしきみましょう！

民主的権利と自由をまもり、反動とファシズムの暗黒勢力に反対し、人種主義と排外主義に反対し、独占資本の横暴に反対し、経済と政治の軍事化に反対してともにたたかきましょう！

自分たちの自由と独立をかちとるための各国人民の闘争は、闘争をのぞむ勢力を弱め、平和勢力を強めます。

アフリカの人民は、植民地的などれい化と野蛮な搾取に苦しんできましたが、そのアフリカは新しい生活にめざめつつあります。アフリカの諸民族は独立国家をつくりあげるとともに、ますます自主性を高めている新興の平和愛好勢力として歴史の舞台に進出していきます。

しかし、歴史的には滅亡の運命にある植民地主義はまだすっかり根絶されてはいません。

東部アフリカにおけるイギリスやポルトガルの植民地諸民族の自由への道は、むごい弾圧とテロによってさえぎられています。南アフリカ連邦では人種差別制度があれくるっています。英雄的なアルジェリア人民は、大西洋ブロックの共謀者に支持されるフランス植民地主義者のしかけた戦争

で血を流しながら、六年このかた民族独立の権利を勝ちとるためにたたかっています、コンゴでは帝国主義者たちは、サギ師のようなやり口と買収の手をつかって合法政府をくつがえし、権力を自分たちの思いのままになるカイライに引きわたすために、手段をえらばないありさまです。

独立国家として存在する権利を勝ちとった各国の人民は、新しい形態をとった植民地主義、すなわちアメリカや西ドイツの植民地主義者、従来からのイギリスやフランスその他の抑圧者にたいして、苦しめたたいをつづけています。これらの抑圧者たちは、どんなことをしても天然資源、鉱山、農園を自分たちの手からはなさず、解放を勝ちとった国ぐにの工業の発展をさまたげ、これらの国ぐにに売国的な反動政府をおしつけようとしているのです。

植民地主義から解放された国ぐにと、解放のためにたたかっている国ぐにの兄弟のみなさん！

植民地主義の最後の時を告げる鐘が鳴っています。

わたしたち共産主義者はあなたがたとともにたたかいます！ 社会主義諸国の強大な陣営は、あなたがたの味方です！

わたしたちはあなたがたとともにすべての民族に独立の権利を即時かつ無条件にあたえることを要求します！

あなたがたの国の富と働くものの努力があなたがたの福祉をはかるためにだけ利用されるようにしましょう！

完全な主権と経済的独立および自由を勝ちとるためにみなさんがおこなっているたたかいは、神聖な平和の事業に奉仕しています！

共産党と労働者党を代表するわたしたちはうったえます。

男性と女性にたいし、青年にたいし、

すべての職業の人びとと、すべての社会層の人びとにたいし、

政治的な考え、信仰のちがいをこえて、民族、皮膚の色をこえてすべての人びとにたいし、祖国を愛し、戦争をにくむすべての人びとにたいし、訴えます。

核兵器その他の大量殺人兵器の実験、製造、使用を即時禁止するよう要求しましょう！

管理された全般的かつ完全な軍縮の条約をすぐに結ぶよう要求しましょう！

現代の科学と技術をこれ以上に殺人と破壊の兵器の製造に役だてないようにしましょう！ 現代の科学と技術が人びとの幸福と人類の進歩に使われるようにしましょう！

軍事ブロックを廃止して、すべての国のあいだの友好的協力、ひろい通商、文化の交流を勝利させましょう！

今日では、平和勢力が戦争勢力をしんでいます！

もし各国の人民が力をあわせて平和と各国人民の友好のためにねばりつよく、積極的にたたかうならば、平和を守るという待望の崇高な目的を達成することができます。

共産主義者はそのために全力をささげます。

平和は戦争に勝利します！

## 付録

一九五七年モスクワ会議の宣言  
平和のよびかけ

### 社会主義諸国の共産党・労働者党・代表者会議についての発表

一九五七年十一月一日から一六日まで、モスクワで社会主義諸国の共産党、労働者党の代表の会議がひらかれた。

この会議に参加したのは、アルバニア労働党、ブルガリア共産党、ハンガリー社会主義労働者党、ベトナム労働党、ドイツ社会主義統一党、中国共産党、朝鮮労働党、モンゴル人民革命党、ポーランド統一労働者党、ルーマニア労働者党、ソ連邦共産党およびチェコスロバキア共産党の各代表である。

会議は満場一致で社会主義諸国の共産党・労働者党の宣言を採択した。宣言の全文つぎのとおり。

### 社会主義国の共産党・労働者党代表者会議の宣言

〔一九五七年〕

アルバニア労働党、ブルガリア共産党、ハンガリー社会主義労働者党、ベトナム労働党、ドイツ社会主義統一党、中国共産党、朝鮮労働党、モンゴル人民革命党、ポーランド統一労働者党、ルーマニア労働者党、ソ連邦共産党、チェコスロバキア共産党の代表は、この会議で、現在の国際情勢と平和と社会主義のための闘争という緊急な問題をも、各党間の関係の問題をも討議した。

意見の交換は、検討されたすべての問題について、会議に代表を出している共産党・労働者党の見解が一致していること、今日の国際情勢の評価について各党が一致していることを示した。会議での討議のさいには、国際共産主義運動の共通の問題も取りあげられた。この宣言起草するさいには、会議の参加者は、資本主義諸国の兄弟党の代表と協議した。会議に参加しなかった兄弟党は、この宣言にのべられている見解について評価をくだし、それにたいしてどういう態度をとるかを自分で決定するであろう。

われわれの時代の主要な内容は、ロシアの十月社会主義大革命にはじまる、資本主義から社会主義への移行である。いまではもう、世界人口の三分の一以上——九億五千万以上——が社会主義の道にふみだして、新しい生活をきずいている。社会主義勢力の巨大な発展は、戦後の時期に、帝国主義に反対する民族運動の嵐のような成長をうながした。この十二年間に、中華人民共和国、ベトナム民主共和国、朝鮮民主主義人民共和国以外にも七億以上の人が植民地のくびきを脱して、民族主権をもつ自分の国家をうちたてた。また隷属状態におかれている、植民地・従属国の人民は、民族解放のたたかいをつよめている。社会主義と民族解放運動の発展は、帝国主義の崩壊過程をいちじるしく早めた。帝国主義は、人類の大部分にたいするかつての支配をうしなつた。帝国主義諸国の社会は、深刻な階級的矛盾と、帝国主義国家間のするどい矛盾とになやまされている。これらの国の労働者階級は、帝国主義と独占体の政策にますます断固たる態度で対立し、生活条件の改善のため、民主主義的権利、平和と社会主義のためにたたかっている。

われわれの時代には、世界の発展は二つの対立する社会体制の競争の経過と結果によって決定される。四十年のあいだに、社会主義は、資本主義よりはるかにすぐれた社会体制であることを証明した。社会主義は、資本主義にはなかつたし、またありえない速度での生産力の発展と、勤労者の物質的および文化的生活水準の向上を保障した。経済、科学、技術の分野でソビエト連邦のおさめた大きな成功、その他の社会主義諸国が社会主義建設でおさめた成果は、社会主義の偉大な生命力

を争う余地なく示している。社会主義国家では、勤労大衆は真の自由と民主主義的権利をもっており、人民の権力が人民大衆の政治的統一を保障し、諸民族の平等と友好を実現し、世界平和を維持し被抑圧民族の解放闘争を支援する対外政策を実行している。発展し強化している社会主義世界体制は、国際情勢にますます大きな影響をおよぼし、各国人民の平和と進歩と自由に貢献している。

社会主義は上り坂にあるが、帝国主義は衰退にむかっている。帝国主義の地歩は、植民地体制が崩壊した結果、いちじるしくよわまった。植民地主義のくびきを脱した国々には、獲得した独立をまもり、経済的独立の達成と諸国民間の平和のためにたたかっている。社会主義体制の存在、社会主義諸国がこれらの国に平等の原則にたてあてている援助、侵略に反対して平和のためにたたかううえで、社会主義諸国とこれらの国が協力していることは、これらの国の人民が自国の民族的自由をまもり、社会進歩の道を前進する可能性をつよめている。

帝国主義国家では生産力と生産関係の矛盾が激化している。資本主義が生産力の発展をまたげゆがめているので、今日の科学と技術は、多くの点で、社会進歩のため、全人類のために利用されていない。世界資本主義経済は依然として動揺しやすく不安定である。資本主義世界の多くの国にはいまのところ比較的よい景気がたもたれている。これは主として、軍拡競争その他の一時的な要因という、不安定な基盤のうえに生じたものである。だが資本主義経済は新しい深刻な激動と恐慌をきけることはできない。この一時的な景気は、資本主義諸国の一部の労働者のあいだに改良主義的な幻想を維持させている。戦後の時期に、高度に発達した資本主義諸国の労働者階級の若干の層は、搾取の強化に反対し生活条件を改善するための闘争をつうじて、賃金をいくらか引上げること

に成功した——もともと、これらの国の多くでも実質賃金は戦前の水準よりも低い。だが資本主義世界の大部分、とくに植民地・従属国では、いく百万の勤労者が貧困のうちにくらくらしている。独占体が農業に広く侵入してきた結果、独占体がおしつけてくる価格政策と銀行の信用・貸付制度の結果、また軍拡競争から生じる増税の結果、農民の大多数の零落と窮乏がつづいている。ブルジョアジーと労働者階級の矛盾が激化しているだけでなく、独占ブルジョアジーと人民のあらゆる層との矛盾も、一方ではアメリカの独占ブルジョアジーと、他方ではその他の資本主義諸国の人民との矛盾、いな、それらの国のブルジョアジーとの矛盾さえ、激化している。資本主義諸国の勤労者は、いまだでは、かれらの苦しい状態から脱け出すただ一つの出口が社会主義だということをますます確信せざるをえないような状況のもとに生活している。こうして、かれらを社会主義のための積極的な闘争にひきいれるためにますます有利な条件が生まれている。

アメリカの侵略的な帝国主義者集団は、いわゆる力の政策をおこないながら、世界の大多数の国を支配しようとし、社会発展の法則にしたがって人類が前進するのをまたげようとしている。

「共産主義との闘争」という口実にかくれて、かれらは、ますます多くの国を自分の支配下におくとし、民主主義的自由の破壊をそのかし、発達した資本主義諸国の民族的独立をおびやかし、解放された各国人民に新しい形の植民地的なくびきをはめようとし、社会主義諸国にたいして敵意ある破壊活動を系統的におこなっている。アメリカの特定の侵略者集団は、その政策によって、資本主義世界のあらゆる反動勢力を自分のまわりに結集しようとしている。この集団は、こうして、世界反動の中心となり、人民大衆の最悪の敵となっている。反人民的・侵略的なこの帝国主義勢力

は、自分の政策によって自分の破壊を準備し、自分をほうむる墓掘人を自分でつくりだしているのである。

帝国主義が存続するかぎり、侵略戦争の根源ものこるだろう。戦後、アメリカ、イギリス、フランス、その他の帝国主義者とその召使は、インドシナ、インドネシア、朝鮮、マラヤ、ケニア、グアテマラ、エジプト、アルジェリア、オーストラリア、イエーメンで戦争をおこなったし、いまもおこなっている。同時に侵略的な帝国主義勢力は、軍備縮小、原子・水素兵器の使用と生産の禁止、この兵器の実験の即時停止についての協定を頑強に拒否し、いわゆる「冷たい戦争」をつづけ、軍拡競争をおこない、軍事基地をつぎつぎに建設し、平和を破壊する侵略政策をすすめ、新しい戦争の危険をつくりだしている。核兵器禁止協定がまだ達成されない状況のもとで世界戦争がおきるなら、この戦争はかならず、これまでにない破壊力をもった核戦争となるであろう。

西ドイツには、アメリカの援助をうけてドイツ軍国主義が復活し、こうして、ヨーロッパの中央にゆゆしい戦争の危険の策源地がつくられている。平和をおびやかす、西ドイツの軍国主義と報復主義にたいしてたたかうことは、ドイツ民族およびヨーロッパのすべての民族の平和愛好勢力の重要な任務である。このたたかいでは、ドイツ民主共和国——ドイツの歴史上で最初の労働者・農民の国家——の役割はとくに大きい。会議の参加者は、ドイツ民主共和国にたいする連帯と完全な支持とを表明する。

同時に帝国主義者は、中近東の自由を愛する諸国民に悪名たかい「ダレス—アイゼンハワー—ドクトリン」をおしつけようとしており、こうして、この地域の平和をおびやかしている。かれら



は、独立シリアにたいして陰謀と挑発をくわだてている。シリア、エジプト、その他のアラブ諸国にたいする挑発は、アラブ諸国家を分裂させ、孤立させて、その自由と独立を一掃するための道をきりひらくことを目的としている。

侵略ブロックのSEATO（東南アジア条約機構）は、東南アジアに戦争の危険をうみだしている。

戦争が平和共存かという問題は、世界政治の根本問題になっている。すべての国の人民は、帝国主義がうみだしている戦争の危険にたいして最大の警戒心をもちつけないといけない。

平和勢力が非常に大きくなっているのに、いまだに、戦争をふせぐ現実的な可能性がある。このことは、エジプトで帝国主義者の侵略計画が失敗したことがはっきり証明している。ハンガリーの人民民主主義制度を打倒するために反革命勢力を利用しようとした、かれらの計画も失敗した。

現代の強大な勢力が平和をまもっている。その勢力とは、ソビエト連邦をはじめとする社会主義諸国家のゆるぎない陣営であり、反帝国主義的な立場をとって、社会主義諸国家とともに広大な平和地域をつくっているアジア、アフリカの平和愛好諸国家であり、国際労働者階級、なによりもその前衛である各国共産党であり、植民地・半植民地の人民の解放運動であり、各国人民の大衆的な平和擁護運動である。中立を宣言したヨーロッパ各国の人民、ラテン・アメリカの各国人民、帝国主義諸国じたいの人民大衆も、新しい戦争を準備する計画に断固として反対している。これらの強大な勢力が団結すれば、戦争の勃発をふせぐことができるし、帝国主義の戦争気遣いどもが、一切をかえりみずにあえて戦争を誘発するなら、帝国主義は自分から没落の運命におちいることになる。

だろう。なぜなら、人民は、自分たちにこんなにもひどい苦しみと犠牲をおわせる制度にはこれ以上たえられなくなるであろうからである。

この会議に参加した共産党・労働者党は声明する。二つの体制の平和共存というレーニンの原則、ソ連邦共産党第二十回大会の諸決定のなかで今日の事情に適合してさらに発展させられたこの原則は、社会主義諸国の対外政策の不動の基礎であり、平和と諸国民間の友好の確実な基礎である。中華人民共和国とインド共和国とが共同で提起した五原則も、アジア、アフリカ諸国のバンドン会議の採択した原則も、平和共存の利益にそっている。平和と平和共存のためのたたかいは、いまだに世界のすべての国のもっとも広範な大衆の要求となっている。

各国共産党は、平和をまもるたたかいを自分のもっとも重要な任務とみなしている。共産党は、すべての平和を愛する勢力とともに、戦争をふせぐために全力をつくすであろう。

## 二

会議は、現在の情勢のもとでとくに重要な意義をもつのは、社会主義諸国家の、またすべての国の共産党・労働者党の、統一と兄弟的協力をつよめることであり、国際労働運動、民族解放運動、民主主義運動を団結させることである、と考える。

社会主義世界体制に属する国々に、すべての共産党・労働者党の相互関係の基礎をなすものは、実生活の試練をへたマルクス・レーニンの主義の諸原則、プロレタリア国際主義の諸原則である。現在すべての国の勤労者がソ連邦とすべての社会主義国を支持することは、かれらの切実な利益にそ

っている。なぜなら、これらの国は全世界の平和をまもる政策をとって、平和と社会進歩のとりでだからである。すべての国の労働者階級、民主主義勢力、勤労者は、共同の事業のために兄弟的な結びつきをうまずたゆまず強化してゆくことに関心をもっており、最初で最強の社会主義大国であるソビエト連邦、中華人民共和国、すべての社会主義国家で実現されている、歴史的な政治的・社会的成果を社会主義の敵の陰謀からまもること、これらの成果を広げかためることに関心をもっている。

社会主義諸国は、その相互関係を、完全な同権、領土の保全と国家的独立および主権の尊重、相互の内政不干涉という原則にもとづいてうちたてている。これは重要な原則である。だがこれらの原則も、社会主義諸国間の関係の本質を完全にいつくすものではない。兄弟的な相互援助は、社会主義諸国間の相互関係の切りはなせない一部分である。この相互援助にこそ、社会主義的国際主義の原則が力よくしめされている。

社会主義国家は、完全な同権、互恵、同志的な相互援助にもとづいて、相互のあいだに、幅広い経済的・文化的な協力をうちたてている。そしてこの協力は、それぞれの社会主義国の経済的および政治的独立を強固にし、社会主義的共同体全体を強固にするのに重要な役割を演じている。社会主義国家は、今後も相互間の経済的、文化的協力を広げ、改善してゆくであろう。

社会主義諸国家はまた、もし他の国ぐにが同様な希望をしめすなら、平等、互恵、内政不干涉にもとづいて、それらのすべての国ぐにとも経済的・文化的な結びつきを全面的に広げることと同意する。社会主義国家の連帯性は、他のどの国家にも鉾先をむけるものではない。そればかりではなく、

この連帯性は、好戦的な帝国主義者集団の侵略意図をおさえ、強化している平和勢力を支持、激励することによって、平和を愛するすべての人民の利益に役立っている。社会主義諸国は、世界を軍事ブロックに分けることには反対である。だが、西がわ列強が、軍事ブロックを互いに廃止しようという社会主義諸国の提案を拒否している現状のもとでは、ワルシャワ条約機構は存続し強化されざるをえない。ワルシャワ条約は防衛的なもので、ヨーロッパの諸国民の安全と世界平和の維持に役立っている。

社会主義諸国家は、社会主義という共通の道にふみだしたことで、社会経済体制と国家権力の階級の本質を共通にすること、相互の支持と援助を必要とすること、帝国主義に反対し、社会主義と共産主義の勝利のためにたたかう上での利害と目標を共通にすること、マルクス・レーニン主義という各国共通のイデオロギーをもっていることで、単一の共同体に結合されている。

社会主義諸国の団結とかたい統一は、それぞれの社会主義国の民族的独立と主権の確実な保障である。社会主義諸国の兄弟のような関係と友好をかためるためには、共産党・労働者党のマルクス・レーニン主義的・国際主義的な政策が必要であり、国際主義と愛国主義を結びつける精神ですべての勤労者をおしえること、ブルジョア民族主義と排外主義の残存物を克服するために断固としてたたかうことが必要である。社会主義諸国間の相互関係の問題はみな、社会主義的国際主義の原則を無条件にまもりながら、同志的に討議することによって完全に解決することができる。

ソ連邦での社会主義の勝利、人民民主主義諸国での社会主義建設の成功は、すべての国の労働者階級と勤労者の広範な大衆のあいだに、ますます深い共感をよんでいる。社会主義の思想は、つきつぎにいく百万の人びとの意識をとらえている。こうした事情のもとで帝国主義ブルジョアジーは、大衆のイデオロギー工作をますます重視するようになり、社会主義をゆがめ、マルクス・レーニン主義を中傷し、大衆をまよわせ、大衆のあいだに混乱をもちこもうとしている。だから大衆のマルクス・レーニン主義的教育を強化し、ブルジョア・イデオロギーとたたかい、社会主義と共産主義運動にむけられた帝国主義的宣伝のうそと中傷を暴露し、社会主義、平和、諸国民の友好という思想をわかりやすい、納得のいく形で広く宣伝することは、もっとも重要な意義をもっている。

会議は、社会主義革命と社会主義建設の根本問題について共産党・労働者党の見解が一致していることを立証した。ソ連邦その他の社会主義諸国の経験は、社会主義革命と社会主義建設の過程が社会主義の道にふみだすすべての国に特有ないくたの重要な法則を基礎にしているという、マルクス・レーニン主義理論の命題の正しいことを完全に立証している。これらの法則は、歴史的に生じていて、かならず考慮しなければならない多種多様な民族的特殊性と伝統とがあるにもかかわらず、どの国にもあらわれている。

このような共通の法則とはつきのようなものである。すなわち、なんらかの形態のプロレタリア革命をおこない、なんらかの形態のプロレタリアートの独裁を樹立するにあたって、マルクス・レーニン主義党を中核とする労働者階級が勤労大衆を指導すること。労働者階級が農民の大多数、勤労者のその他の層と同盟すること。基本的な生産手段の資本主義的所有を廃止して、その社会的所

有を確立すること。農業の社会主義的改造を徐々におこなうこと。社会主義と共産主義を建設し勤労者の生活水準の引上げをめざして、国民経済を計画的に発展させること。イデオロギーと文化の分野で社会主義革命を実現し、労働者階級、勤労人民、社会主義の事業に献身する多数のインテリゲンチアをつくりだすこと。民族的抑圧を一掃し、民族間の同権と兄弟的な友宜とを確立すること。内外の敵の襲撃から社会主義の成果をまもること。その国の労働者階級とその他の国ぐにの労働者階級との連帯——プロレタリア国際主義である。

マルクス・レーニン主義は、社会主義革命と社会主義建設の共通の原則を各国の具体的な歴史的條件に応じて、創造的に適用することを要求し、他の国ぐにの共産党の政策と戦術を機械的に引きうつしすることをゆるさない。ヴェ・イ・レーニンは、共産主義の基本原則を特定の民族、特定の民族国家の特殊性に応じて正しく適用しなければならないと、再三警告している。プロレタリア党が民族的特殊性を無視すれば、その結果その党はかならず実生活と大衆から遊離するようになり、社会主義の事業にかならず損害をあたえる。その逆に、これらの特殊性を過大視し、民族的特殊性を口実にして社会主義革命と社会主義建設の普遍的真理からそれるなら、これまた、社会主義の事業にかならず損害をあたえる。会議の参加者は、これらの両方の傾向にたいして同時にたたかうことが必要であると考えた。社会主義諸国の共産党・労働者党は、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を自国の革命と建設の具体的な実践に結びつけるという原則を堅持し、社会主義革命と社会主義建設の共通の法則を自国の具体的な条件に応じて創造的に適用し、互いにまなびあい、経験を交流しあわなければならない。実生活の経験でためされた社会主義建設の共通の法則を創造的に適用

導的役割を否定し、プロレタリア国際主義の原則を否定し、党建設のレーニン主義的基本原則、なによりも民主主義的中央集権制を拒否するよう要求し、共産党を戦闘的な革命組織から討論クラブのようなものにかえてしまうことを要求する。

国際共産主義運動の経験全体がおしえてるように、社会主義革命、社会主義建設と共産主義建設という任務を首尾よく解決するのに欠くことのできない保障は、共産党・労働者党が自分の隊列のマルクス・レーニン主義的統一をまもり、この統一を破壊する分派やグループをゆるさないことである。

#### 四

共産党・労働者党は、偉大な歴史的任務に当面している。この任務を実現するためには、共産党・労働者党そのものを団結させるだけでなく、全労働者階級をも団結させることが必要であり、労働者階級と農民の同盟を強化し、全勤労者と全進歩的人類を団結させ、全世界の自由を愛し平和を愛する勢力を団結させることが必要である。

いま全世界でもっとも重要な任務は、平和をまもるためにたたかうことである。すべての国の共産党・労働者党は、平和を愛し戦争をのぞまないあらゆる勢力と、もっとも広範な規模で共同行動をとるよう努力している。会議の参加者は、平和を支持し、戦争に反対し、平和共存に賛成し、ヨーロッパとアジアにおける集団の安全保障の創設、軍備縮小、核兵器の使用と実験の禁止に賛成する、あらゆる国家、政党、団体、運動および個人の努力を支持することを声明する。

共産党・労働者党は、すべての国の人民の民族的および民主主義的利益の忠実な擁護者である。多くの国の労働者階級と人民は、いまなお、民族独立を勝ちとるために、植民地侵略と封建的抑圧に反対してたたかう歴史的な任務に当面している。ここでは、労働者、農民、都市小ブルジョアジー、民族ブルジョアジーその他の愛国民主勢力の反帝反封建の統一戦線を創設することが必要になっている。多くの事実が証明しているように、いろいろの愛国民主勢力の団結が幅広く強固であればあるほど、共同のたたかいでの勝利はますます確実になる。

労働者階級と人民大衆は、戦争の危険に反対し、自分の切実な利益のためにたたかうなかで、ますますこのたたかいの鋒先を大独占資本グループ、軍拡競争の主な責任者であり、新しい世界戦争を準備する計画の組織者および激励者であり、侵略と反動のとりである大独占資本グループに、むけていく。このほんのひとにぎりの独占体の利害と政策は、労働者階級の利害だけでなく、農民、インテリゲンチア、都市の小中ブルジョアジーなど、資本主義社会のその他すべての階層の利害とますます矛盾するようになっていく。アメリカの独占体が自分に従属させようとしている資本主義諸国や、アメリカの経済的、軍事的膨張政策にくるしめられている国々には、平和をまもり、民族独立と民主主義的自由をまもり、勤労者の生活条件を改善し、急進的な農地改革を実施し、民族の利益を裏切っている独占体の専制を倒すために、労働者階級とその革命政党の指導のもとに、もっとも広範な住民各層を統一する客観的な条件がうまれつつある。

国際舞台で社会主義に有利に深刻な歴史的変化がおこり、力関係が根本的に変動するにつれ、また労働者階級、勤労農民、勤労インテリゲンチアのあいだで社会主義の思想の魅力が増大した結

果、社会主義の勝利にいつそう有利な条件が生じつつある。

資本主義から社会主義へ移行する形態は、国がことなるにつれて多種多様なものとなりうる。労働者階級とその前衛であるマルクス・レーニン主義党は、平和な方法で社会主義革命をやりとげようとしている。この可能性を実現することは、労働者階級と全人民の利益に、民族全体の利益に合致する。

現在の条件のもとでは、一連の資本主義諸国で、前衛部隊にみちびかれる労働者階級は、労働者の統一戦線および人民戦線、その他のあらゆる形態のいろいろの政党や社会団体の協定や政治的協力にもとづいて、人民の大多数を統一し、内戦なしに国家権力をにぎり、基本的な生産手段を人民の手にうつすことのできる可能性をもっている。人民の大多数をよりどころにし、資本家や地主との妥協政策をすてることのできない日和見主義分子に断固たる反撃を加えることによって、労働者階級は、反動的な人民の勢力を敗北させ、議会で安定した過半数をもちとり、ブルジョアジーの階級的利益に奉仕する道具である議會を、勤労人民に奉仕する道具にかえ、議會外のひろい大衆闘争をくりひろげ、反動勢力の抵抗を粉碎して、社会主義革命を平和のうちに実現するために必要な条件をつくりだす可能性をもっている。だが、これはすべて、大独占資本に反対し、反動勢力に反対し、深刻な社会改革をめざし、平和と社会主義をめざす、労働者、農民大衆、都市中間層の階級闘争の、ひろい、たゆみない発展によってこそ可能になるものである。

搾取階級が人民にたいして暴力にうったえてくるばあいには、べつの可能性、すなわち、社会主義への非平和的移行の可能性をも考えにいれなければならない。レーニン主義が教えているよう

に、また歴史の経験が証明しているように、支配階級は、みずからすすんで権力をゆすりわたすものではない。このような条件のもとでは、階級闘争のはげしさの程度とその形態は、プロレタリアートにかかっているのではなくて、むしろ人民の圧倒的多数の意思にたいする反動勢力の抵抗力、社会主義をめざすたにかいのあれこれの段階で反動勢力が暴力をつかうかどうかにかかっているのである。

それぞれの国で、社会主義へ移行するどちらの方法が現実的に可能であるかは、具体的な歴史的條件によってきまる。

勤労者の生活水準を改善し、かれらの民主主義的権利を拡大し維持し、民族独立を獲得し擁護するためにたたかい、諸国民間の平和のためにたたかうにあたっても、権力を獲得して、社会主義建設のためにたたかうにあたっても、共産党は、社会党との協力をうちたててことに賛成する。社会党の右翼指導者がこの協力を極力妨害しようとしているにもかかわらず、多くの問題で共産党員と社会党員が協力する可能性はやはり増大している。共産党と社会党のあいだのイデオロギー上の相違は、いま労働運動が当面している多くの緊急の問題について、行動の統一をうちたてて障害となつてはならない。

労働者階級が権力をその手におさめている社会主義諸国では、共産党・労働者党は、もともと広範な大衆とかたい結びつきをうちたててあらゆる条件を手にいれているのであるから、そのすべての活動でたえず人民大衆をよりどころにし、社会主義の建設と防衛を、国の主人であるという自分の地位をふかく自覚しているいく百万勤労者の事業にしなければならない。広範な人民大衆の積極

性と創造的創意をたかめ、その団結をかため、社会主義体制を強固にし、社会主義建設を強化するうえで重要な意義をもっているのは、社会主義的民主主義を拡大し、批判と自己批判を展開するために、近年社会主義諸国家でとられた措置である。

労働者階級の真の団結、全勤労者と全進歩的人類の団結、全世界の自由を愛し平和を愛する勢力の団結をかちとるために必要なのは、共産党・労働者党そのものの団結をかため、すべての国の共産党・労働者党のあいだの団結をかためることであり、これにはいささかの疑いもない。この団結はいつそう幅広い団結の核心であり、労働者階級の事業が勝利するもつとも基本的な保障である。

共産党・労働者党は、社会主義世界体制と国際共産主義運動の運命にとくに重大な歴史的責任をおっている。会議に参加した共産党・労働者党は、声明する。これらの党は社会主義諸国家の共同体のいつそうの団結のため、国際労働運動と平和と社会主義の事業のために、自分たちの統一と同志的協力をうまずたゆまずつよめていくであろう。

会議は、国際共産主義運動が成長し、多くの重要な試練にたえ、いくたのすばらしい勝利をおさめていることを、指摘できるのを満足におもっている。共産主義者は、勤労者にたいし、マルクス・レーニン主義理論の生命力と、社会主義の偉大な理想を宣伝するだけでなくきわめて困難な実践をつうじてこれを実現する能力とを、自分の行動によって世界的規模で証明した。

人類史上のあらゆる進歩的運動とおなじように、共産主義運動がその進路で困難や曲折にであうことはさけられない。だがこれまでもそうであり、現在もそうであるように、将来も、どんな困難

や曲折も歴史的発展の客観的法則を変えることはできないし、古い世界を変革して新しい世界をつくろうという、労働者階級の偉大な決意をうちくたくともできない。共産主義者は、闘争の舞台にのぼってிரらい、反動勢力の迫害と追求をうけている。だが共産主義運動はこれらの攻撃を英雄的に撃退し、試練をきりぬけていつそう強力できたえられたものになっている。新しい時代をめざす人類社会の発展を妨げようとする反動的な帝国主義勢力の企てにたいして、共産主義者は、自分たちの統一と団結をいつそう強化することだえている。

いわゆる「共産主義の危機」という帝国主義のたためな主張に反して、共産主義運動は成長し強化している。ソ連邦共産党第二十回大会の歴史的な諸決定は、ソ連邦共産党とソ連における共産主義建設にとって重要な意義をもつばかりでなく、国際共産主義運動の新しい段階の端緒となり、マルクス・レーニン主義にもとづく共産主義運動のいつそうの発展をうながした。最近、中国、フランス、イタリア、その他の国の共産党大会が成功裏におこなわれたが、これらの大会は、党の隊列の統一と団結、プロレタリア国際主義の原則にたいするこれらの党の忠誠をはっきり示している。この共産党・労働者党代表者会議も、共産主義運動の国際的団結を証明している。

会議の参加者は、意見を交換した結果、今日の事情のもとでは、指導的な活動家の会談や二党間の情報交換とならんで、必要に応じてもっと広範団の共産党・労働者党会議をひらいて、緊急な問題を討議し、経験を交流し、見解と立場を知りあい、共同の目標である平和と民主主義と社会主義のための共同闘争を調整することが目的にかなっているという結論に達した。

会議の参加者は、共産党・労働者党が自分の隊列を団結させ、これにもとづいてすべての国の労働

働者階級と人民を団結させながら、前進をはばむあらゆる障害をかならず克服し、世界的な規模で平和と民主主義と社会主義の事業の新しい偉大な勝利を近づけるであろうという、固い確信を一致して表明する。

### 共産党・労働者党代表者会議についての発表

十月社会主義大革命四〇周年祝典に参加した各国共産党、労働者党代表団はモスクワ滞在を利用して友好的な会議をひらき、すべての党が関心をもっている諸問題を検討した。

一月一六日から一九日にかけてモスクワでおこなわれた会議にはつぎの各国の党代表が参加した。オーストラリア共産党、オーストリア共産党、アルバニア労働党、アルジェリア共産党、アルゼンチン共産党、ベルギー共産党、ボリビア共産党、ブルガリア共産党、ブラジル共産党、イギリス共産党、ハンガリー社会主義労働者党、ベネズエラ共産党、ベトナム労働党、グアテマラ労働党、ドイツ共産党、ドイツ社会主義統一党、ホンジュラス共産党、ギリシャ共産党、デンマーク共産党、ドミニカ共和国人民社会党、イスラエル共産党、インド共産党、インドネシア共産党、ヨルダン共産党、イラク共産党、スペイン共産党、イタリア共産党、カナダ労働進歩党、中国共産党、コロンビア共産党、朝鮮労働党、コスタリカ人民前衛党、キューバ人民社会党、ルクセンブルグ共産党、マラヤ共産党、モロッコ共産党、メキシコ共産党、モンゴル人民革命党、オランダ共産党、ニュージーランド共産党、ノルウェー共産党、パナマ人民党、パラグアイ共産党、ペルー共産党、ポーランド統一労働者党、ポルトガル共産党、ルーマニア労働者党、サンマリノ共産党、シリア・レバノン共産党、ソ連邦共産党、タイ共産党、チュニジア共産党、トルコ共産党、ウル

グアイ共産党、フィンランド共産党、フランス共産党、セイロン共産党、チェコスロバキア共産党、チリ共産党、スイス共産党、スエーデン共産党、エクアドル共産党、ユーゴスラビア共産主義者同盟、日本共産党。

会議の出席者は現在の国際情勢の緊急の諸問題について意見を交換した。

共産党、労働者党代表はすべての国の労働者、農民、全世界の男女、すべての善意の人びとにあててつぎのような「平和のよびかけ」を出すことを決定した。

会議はマルクス・レーニン主義イデオロギーによる統一とプロレタリア国際主義の諸原則とに結ばれた兄弟党の相互関係の特徴である密接な協力とあたたかい友情のふんいきのなかでおこなわれた。

## 平和のよびかけ

労働者・農民のみなさん！ 科学、技術、文化にたずさわるみなさん！ すべての国の善意のみなさん！

十月社会主義大革命四〇周年を記念するためにモスクワに集まったわれわれ各国共産党・労働者党の代表は、みなさんに、みなさんの理性に、みなさんの心によびかけます。

第二次世界戦争の惨禍は、われわれすべての記憶にまだなまなましくのこっています。戦争の血なまぐさい跡がまだすっかりぬぐいさられていないのに、平和な町や村の家々には、新しい百倍も破壊的な戦争の妖怪がもうとりついています。いま世界には、新戦争の脅威がたえず家庭をおびやかしていかないような国もありませんし、生活のよろこびをくもらせながら、つぎのような不安にみちた問いを出させないような国もありません。――

明日は、一月後には、一年後にはどうなるのでしょうか？ またしても私たちの家は戦火に焼けられ、あらゆるものを破壊する原水爆のために、私たちや私たちの子供は一瞬のうちに死ぬことになるのではないのでしょうか……と。

人びとは、二度の世界戦争ですでに苦い経験をなめています。戦争の嵐のなかで、誰よりも大きな犠牲をはらう普通の人々は、つぎの戦争がどれもありますすひどい苦しみをもち、ますます多くの国を破壊し、ますます多くの人を殺し、ますます恐ろしい、長びく結果をのこすことを知って



います。

大帝主義列強が原因となり、ドイツ軍国主義がしかけた第一次世界戦争は、一千万の人命を奪いました。それはいく千万の人々の健康を奪い、かれらを不具にしました。戦争は多くの国の人民を飢えと窮乏にさらさずにはおきませんでした。

主としてドイツ・ファシズムによつてはじめられた第二次世界戦争は、戦争の渦にまきこまれるのが、巨大な軍隊だけでなく、前線だけではなくになりました。空爆は非武装都市を破壊し、いく十萬、いく百万の平和な一般住民を殺し、ヒトラーの収容所の拷問部屋やガス室でいく百万の男女と児童が非業の死をとげました。いく千の繁栄する都市を建設し、多くの国民に衣食を供給できるほどの莫大な資材が、破壊と殺人につかわれました。第二次世界戦争は、いく百万の傷ついた不具になった人々を計算にいれなくても、三千万以上の人命をのみこみ、そのおわりごろには、日本の非武装都市に最初の原子爆弾が二つおとされました——これこそ、将来の大量殺人のおそろしさをひしひしと感じさせるものでした。

学者の知識、詩人の空想力がなくても、つぎの戦争は、万一人びとがつぎの戦争のおこるのをゆるすなら、人類がこれまでに経験したすべてを凌駕するものとなるであろうと断言できます。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカ、オーストラリアの住民も知っているように、人間は、地球のどの地点にもおそいかれるような破壊作用をもつ巨大な自然力を解放し、そのような巨大な手段を手にかけています。新しい戦争がおきたばいには、人間が安心して身をかくすことができ、安全に身をたもつことのできる場所はないでしょう。原水爆とロケットによる戦争の焰は、すべての国民をつつみ、いく世代の人類に無数の災厄をおよぼすおそれを生むでしょう。

全世界の普通の人びとは、国籍、政治的意見、信仰、皮膚の色のちがいかかわりなく、平和な生活をのぞんでいます。全世界の普通の人びとはこうたずねています。——

その勝利に輝く理性によつて自然のあらゆる秘密をあばき、自然をますます支配していく人間、ソビエトの人工衛星射ちあげのおかげで、間もなく星にも到達することのできる人間、この人間に戦争をさせることが、自殺行為をさせることが、いったいできないことなのではないでしょうか、と。

われわれ、共産党・労働者党の代表は、各国人民の運命にたいする責任を十分に自覚しながら、こう声明します。——

戦争は避けられないものではありません、戦争をおこさせないようにすることはできます。平和をまもりかためることはできるのです、と。

われわれは、四〇年前人類の歴史に新しい時代をひらいた国の首都にあつまっています。一九一七年、ロシアの土地で歴史上最初の社会主義革命が勝利しました。勤労者は権力をその手ににぎり人間が人間を圧迫し搾取するあらゆる形態を一掃することを目標にかかげました。レーニンの党に指導されたロシアの労働者・農民は、その旗のうえに平和のスローガンを書きしるし、つねにこのスローガンに忠実でした。ソビエトの国は、四〇年存在している間に、すべての国民のために平和への道をきりひらき、帝国主義者のつまかさなる障害をもとせず、社会制度のちがいかかわりなく、他の国との平和共存をめざしてきました。

自分たちの切実な利益のために、資本主義諸国の労働者は、平和をまもるこのたたかいに積極的にくわりました。全世界の先進的な人びとはこのけだかい事業を支持してきました。けれども平和と勢力には新しい破局、第二次世界戦争を防止することはできませんでした。平和勢力は小さすぎ

ましたし、ソビエト連邦は、その当時は、平和をまもるために一貫してたたかっていたただ一つの国だったのです。

いまでは、われわれ共産主義者は、戦争をおこさせないようにすることはできる、平和をまもることはできる、といえます。われわれは十分な確信をもってそういうのです。なぜなら、いま世界には以前とはちがった情勢、ちがった力関係があるからです。

十月大革命によって生まれたソビエトの国は、もはやひとりぼっちではなく、孤立していません。ファシズムに勝利したのち、ほぼ十億の人口をかぞえる巨大な社会主義の世界がうまれました。平和と国際協力をめざし、ことなる社会体制の共存をめざし、ソビエト連邦と肩をならべて、もう一つの偉大な社会主義強国、人民中国がすすんでいます。ヨーロッパとアジアの人民民主主義諸国もこのおなじ平和な目的のためにたたかっています。

ソビエト連邦その他の社会主義諸国での工業、科学、技術の空前の発達、平和の事業に役立っており、戦争をひきおこさせない強大な制動力となっています。

世界の舞台には、もう一つ新しい勢力がうまれています。十月革命によって目ざめた植民地人民がそれであり、かれらは、多年の隷属のくびきをすでにたちきったか、たちきろうとしており、平和のうちにくらすことをのぞみ、帝国主義勢力が自国の内政に干渉することをゆるしません。後進性と貧困を片づけるために、かれらは平和と中立の政策をとり、有名な「五原則」——領土・主権の相互尊重、不侵略、相互の内政不干渉、平等・互恵、平和共存——の政策をとっています。

戦争をのぞまないのは社会主義諸国の国民だけでなく、東洋の諸国民だけでもありません。戦争を二度体験した、西がわの資本主義諸国の国民も戦争をにくんでいます。

平和の勢力は巨大であります。平和勢力は、戦争をおこさせないようにすることができ、平和をまもることができ、それができます。だがわれわれ共産主義者は、おそろしい人類殺戮戦争の危険はまだすぎさってはいないと世界のすべての人々に警告することを自分の責任であると考えます。

平和と諸国民の安全にたいする脅威はどこから来るのでしょうか？ 戦争を利益とし、戦争を夢みているのは、二つの世界戦争、現在の軍拡競争で空前の富をつんだ資本主義的独占体であります。軍拡競争は、ばく大な利潤を独占体にもたらすとともに、ますます重い負担を勤労者の肩にかけ、国の経済状態をいじめるしく悪化させています。資本主義独占体、とくにアメリカの独占体の圧力をうけて、一部の資本主義国家の支配者集団は、軍縮、核兵器の禁止、その他の新しい戦争をふせぐことをめざした措置についての提案を拒否しています。国際連合では平和を愛する諸国が立派な提案をすくなくおこなっています。これらの提案が採用されるなら、それは平和をかため、新しい戦争の脅威をよわめるでしょう。軍拡競争を停止し原子戦争の脅威をとりのぞく問題についての提案、諸国家の平和共存についての提案、国家間の関係に欠くことのできない信頼をつくりだす決定的な要因である国家間の経済的協力の発展についての提案のような、国際連合の審議にかけられた提案が、すべての国の国民の切実な利益にそうものであることを否定できるものはだれもありません。世界の運命、つぎのいく世代の運命は、多くの点で、これらの問題がどう解決されるにかかっています。これらの提案に積極的に反対しているのは、国際緊張の維持を利益とするものだけであります。

いく千の新聞や放送局は、アメリカ、イギリス、フランス、イタリアその他の資本主義国の国民に、「世界共産主義」がかれらの自由、かれらの生活様式、かれらの平和な生活をおびやかしてい

る、と毎日のようにくりかえしています。

だがどの共産党にも、どの社会主義国にも、戦争をひきおこして、他の国ぐにを軍事的に攻撃したり、他国の土地を侵略したりする動機はありません。ソビエト連邦にしても、人民中国にしても、広大な領土と無尽蔵の天然資源をもっています。どの社会主義国にも、戦争を利益とする階級または社会層はありません。これらの国で権力をにぎっているのは、すべての戦争で最大の犠牲をはらってきている労働者と農民であります。かれらが新しい戦争をのぞむなどということがいったいあるでしょうか？ 共産主義者の目標は、全般的な福祉、すべての国民の繁栄、諸国民間の永久の平和が保障されるような社会を建設することです。社会主義諸国は、このような社会を建設するために、永続的な平和を必要としています。だから、共産主義者以上に首尾一貫した戦争の敵はいないし、彼ら以上に不屈な平和の闘士はないのであります！

社会主義諸国は、自分たちの社会制度や政治制度を、どの国民にも力によっておしつけようとはおもいません。社会主義諸国は、社会主義がかならず勝利することを確信しています。だが社会主義を外から移植することはできませんし、社会主義はなによりも各国の労働者階級とすべての進歩勢力の国内闘争の結果でなければならぬ、ということも社会主義諸国は知っています。だから社会主義諸国は、他国の内政に干渉しようとはけつしてしないが、他の国が自国の内政に干渉することもあるさないうであります。だから、社会主義諸国が他国に自国の制度を力でおしつけようとして、平和をおびやかしているといった主張は、平和を愛する人びとをあざむこうとする企てにほかなりません。

平和をとおとすすべての人びとが力をあわせ、戦争挑発者のたくらみにたいする警戒心をたかめ、おびやかされている平和をまもるたたかいを強めることが自分たちの神聖な義務である、ということ徹底して自覚するばあいにはじめて、平和はまもることができるのです。

全世界の人民大衆の幸福を考え、すべての国民の進歩と明るい未来をめざして、われわれは、

男女をとわずすべての人びとに、

労働者、農民のみなさんに、

科学者と芸術家のみなさんに、

教師と職員の方々に、

青年のみなさんに、

手工業者、商人、工業家のみなさんに、

社会主義者、民主主義者、自由主義者のみなさんに、

政治上、宗教上の信念にかかわらず、すべての人びとに、

祖国を愛するすべての人びとに、

戦争をのぞまないすべての人びとに、

全世界のすべての善意の人びとによびかけます。

われわれはみなさんのすべてにこうよびかけます。

日ごとに戦争の危険を増大させ、勤労者であるみなさんにとって、いちばん苦しいものになっている軍拡競争を中止するよう要求しましょう。

原子・水素兵器の生産と使用を禁止するよう、第一歩として、この兵器の実験を即時中止するよう要求しましょう。

軍事ブロック政策と他国に軍事基地をつくる政策をやめるよう要求しましょう。

ヨーロッパの中心部で、この前の戦争の主な責任者であるドイツ軍国主義者を再武装しないよう要求しましょう。

中近東での帝国主義者の陰謀と軍事的挑発を中止するよう要求しましょう。

集団安全保障政策、ことなる社会体制の平和共存の政策、諸国民の幅広い経済的・文化的協力の政策を支持しましょう、と。

われわれはすべての人びとにこうよびかけます。

国際連合で平和の政策をとり、冷たい戦争の政策に反対するよう、自国政府に要求しましょう、と。

われわれは全世界のすべての善意の人びとにこうよびかけます。

(1) 原子・水素兵器実験の即時停止のため、

(2) できるだけ短期間内にこの兵器の生産と使用を絶対に禁止するために、自分たちの組織をつくり、たたかおうと。

われわれ共産主義者は、社会主義の事業に生命をささげています。われわれ共産主義者は、この大業の勝利を信じてうたがいません。われわれがわれわれの思想——マルクス・レーニン思想、プロレタリア国際主義の思想の勝利を信じているからこそ、われわれは平和をのぞみ、平和のためにたたかっているのです。戦争はわれわれの敵であります。

今後は、社会体制のちがう国ぐにに平和な科学、平和な技術の発展でたがいに競争させようではありませんか。自分たちのすぐれた点を、戦場ではなく、諸国民の進歩のため、その生活水準の

向上のための競争で証明させようではありませんか。

われわれはすべての善意の人びとに手をさしのべます。力をあわせて、国民を苦しめる軍備の重荷をとりのぞきましょう。戦争と死と破壊の脅威を世界から一掃しましょう。われわれのまえには、進歩をめざしている人類の明るく幸福な未来があります。

世界に平和を！

このよびかけは、

オーストラリア、オーストリア、アルバニア、アルジェリア、アルゼンチン、ベルギー、ボリビア、ブルガリア、ブラジル、イギリス、ハンガリー、ベネズエラ、ベトナム、グアテマラ、ドイツ民主共和国、ドイツ連邦共和国、ホンジュラス、ギリシャ、デンマーク、ドミニカ共和国、イスラエル、インド、インドネシア、ヨルダン、イラク、スペイン、イタリア、カナダ、中国、コロンビア、朝鮮、コスタリカ、キューバ、ルクセンブルク、マラヤ、モロッコ、メキシコ、モンゴル人民共和国、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、パナマ、パラグアイ、ペルー、ポランド、ポルトガル、ルーマニア、サン・マリノ、シリア・レバノン、ソビエト連邦、タイ、チュニジア、トルコ、ウルグアイ、フインランド、フランス、セイロン、チェコスロバキア、チリ、スイス、スエーデン、エクアドル、ユーゴスラビア、日本の共産党・労働者党の代表団によって採択

---

81ヵ国共産党・労働者党代表者会議  
の声明と世界各国人民へのよびかけ

定価 60円

昭和39年4月25日 6版

編集者 日本共産党中央委員会宣伝教育文化部

発行所 日本共産党中央委員会出版部

発売元 日本共産党中央委員会機関紙経営局

東京都渋谷区千駄ヶ谷4ノ26

製本 東京 194897

---

(印刷 山根株式会社印刷)